

令和5年第15回

# 荒川区教育委員会定例会

令和5年8月4日  
於) 日暮里サニーホール

荒川区教育委員会

令和5年荒川区教育委員会第15回定例会

- |        |   |   |
|--------|---|---|
| 1 日 時  | 令和5年8月4日  | 午後1時30分   |
| 2 場 所  | 日暮里サニーホール   |   |
| 3 出席委員 | 教 育 長<br>教育長職務代理者<br>委 員<br>委 員<br>委 員  | 高 梨 博 和<br>坂 田 一 郎<br>小 林 敦 子<br>繁 田 雅 弘<br>長 島 啓 記   |
| 4 出席職員 | 教 育 部 長<br>教 育 総 務 課 長<br>指 導 室 長<br>教 育 セ ン タ ー 所 長<br>書 記<br>書 記<br>書 記<br>書 記<br>書 記 | 三 枝 直 樹<br>山 形 実<br>下 条 知 淑<br>杉 山 茂<br>原 田 正 伸<br>松 本 典 之<br>齋 藤 一 幸<br>丸 田 恭 雅<br>宮 島 弘 江 |

( 1 ) 審議事項

議案第 1 9 号 令和 6 年度から使用する小学校教科用図書の採択について

議案第 2 0 号 令和 6 年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について

( 2 ) その他

教育長 定刻になりましたので、ただいまから荒川区教育委員会令和5年第15回定例会を開催いたします。

本日は傍聴の申し込みが現時点で25名いらっしゃいます。荒川区教育委員会傍聴人規則第2条により、定員は10人と規定されておりますが、教育長が特に必要と認めた場合については、この限りではございません。本日はできるだけ多くの方に傍聴していただけるよう、広い会場を用意いたしました。25人全員の傍聴を許可し、遅れて来た方の傍聴も許可させていただくことといたしますので、あらかじめ御了承ください。

それでは事務局、傍聴人の方々を呼んでください。

〔傍聴者入室〕

教育長 審議に先立ちまして、傍聴の皆様へ申し上げます。皆様にお配りいたしました傍聴券に記載されている注意事項をよくお読みいただきまして、傍聴中において発言などにより議事の進行を妨げることのないようお願い申し上げます。

教育委員会の開催に当たり、出席委員数の御報告を申し上げます。本日5名全員出席でございます。

本日の議事録の署名委員については、坂田委員、小林委員、御両名にお願いいたします。

5月26日開催の第10回定例会及び6月9日開催の第11回定例会の議事録を皆様にお送りしてございます。次回の定例会で承認についてお諮りしたいと考えてございますので、恐れ入りますが次回までに御確認いただき、お気付きの点等について事務局まで御連絡をお願いいたします。

それでは、ただいまから本日の議事日程に従い、議事を進行させていただきます。本日は議案2件となっております。

初めに議案第19号「令和6年度から使用する小学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

荒川区教育委員会におきましては、4月14日に開催した定例会において、今回の小学校教科用図書の採択方針及び手続を確認し、4月28日に開催した定例会におきまして選定調査会への調査依頼項目を決定いたしました。そして5月26日に開催した定例会において選定調査会の委員を決定し、7月14日に開催した定例会において選定調査会からの報告を受けたところです。この間、委員の皆様お一人お一人による調査研究のほか、2回にわたる勉強会を開催し、東京都教育委員会による教科書調査研究資料等の資料、教科書展示会におけるアンケート等も参考に検討をしていただいております。

本日は、それらの調査研究の結果を持ち寄っていただき採択を行いますので、どうぞよろしく申し上げます。

本日の議事の進め方でございますけれども、御手元の議案に記載のとおり、各教科、種目ごとに一つ一つ御審議、そして採択を進めてまいります。

それでは、議案の審議に入ります。議案第19号「令和6年度から使用する小学校教科用図書の採択について」、事務局から議案の説明がございます。

指導室長 それでは議案第19号「令和6年度から使用する小学校教科用図書の採択について」、御説明を申し上げます。

令和6年度から使用いたします小学校教科用図書につきましては、文部科学省より示されました「小学校用教科書目録 令和6年度使用」に掲載の54種類の教科書の中から、11教科13種目について、それぞれ1種類の教科用図書を荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づき、御採択を頂きます。

調査の経過について、御報告申し上げます。先ほど申し上げました荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づき、令和5年5月29日に教科用図書選定調査会を設定いたしました。この選定調査会は、学識経験者、地域関係者、保護者、学校関係者の計6名で組織され、全3回の協議を通して対象となる教科用図書に関して調査研究を行いました。

また、区民の皆様や各学校の教員等に直接教科書を手にとって御覧いただき、広く御意見を頂くため、令和6年度使用小学校教科用図書見本展示会を6月12日から6月14日まで、荒川区立図書館ゆいの森あらかわにて、また、6月12日から7月5日まで、荒川区立教育センター内にて開催いたしました。さらに小学校を巡回する見本展示会も開催いたしました。6月12日から6月16日まで、荒川区立第九峡田小学校と荒川区立第三日暮里小学校、また、6月21日から6月23日と6月26日から6月27日まで、荒川区立汐入小学校と荒川区立尾久小学校、以上四つの小学校で巡回展示会を行いました。

以上の見本展示会には、延べ488名の入場者があり、うち470名の方からアンケートの回答を頂きました。このアンケートにつきましては、委員の皆様には事前にお渡ししてございます。

これら令和6年度使用小学校教科用図書選定調査会調査研究報告書、及び教科用図書見本展示会アンケートを御参考に御審議いただき、採択につきましてよろしく御願い申し上げます。

以上でございます。

教育長 ただいま指導室長から説明がございましたが、採択の対象は11教科13種目となっております。議案書に記載の順に審議、採決を行い、決定してまいりたいと存じます。

審議、採決の方法は、種目ごとに事務局より改めて調査内容の報告を受けた後に、各委員から報告内容に対する質疑や各社の教科用図書に対する意見、候補とすべき図書の推薦など

について御発言を頂きます。協議をさせていただく中で最終的に大方の方向がまとまったと判断された段階で採決を行います。

最終的に委員の意見が分かれ複数の候補が残った場合には、その複数の候補について議案に記載されている発行者の順にその発行者の図書がふさわしいと判断される委員の皆様挙手にお願いするという形で採決したいと考えてございます。その場合、私も含めて本日の出席委員が5名ですので地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、過半数の3票を獲得した発行者の図書が採択となります。いずれの教科用図書も3票に達しない場合につきましては、他の教科、種目の採択を進め、議案の最後の種目が終了した段階で再度審議、採決を行います。

なお、退席などにより委員が4名となり、可否同数となった場合は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、教育長である私が決定をさせていただきます。御了承いただけますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 皆様の御同意が得られましたので、そのように取り扱わせていただきます。

教科「国語」、種目「国語」から審議、採決をいたします。

初めに、指導室長から「国語」について説明がございます。

指導室長 それでは教科「国語」、種目「国語」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新しい国語」、東京書籍でございます。内容につきまして、巻頭に言葉の力を身につける手順が掲載され、児童が学習の見通しを持てるようにしております。学習活動につきまして、「国語の学習の進め方」や「学習の流れ」を明示することで、児童が見通しを持ち、主体的に学習に取り組む工夫がされております。

次に「ひろがる言葉 小学国語」、教育出版でございます。内容につきまして、AIや電子メール、環境問題等現代的な内容を取り上げております。学習活動につきまして、日記等子どもの興味・関心を高める言語活動が取り上げられております。

次に「国語」、光村図書出版でございます。内容につきまして、付録に『『たいせつ』のまとめ』があり、学習した内容全体を振り返ることができるようになっております。学習活動につきまして、「国語の学びを見わたそう」で単元の初めに学習の流れを明示することで、児童が見通しを持ち、主体的に学習に取り組む工夫がされております。また、地域性につきまして、荒川区立図書館ゆいの森あらかわと、汐入東小学校の学校図書館が紹介されております。

以上でございます。

教育長 教科「国語」、種目「国語」について、指導室から説明がございました。それでは委員の皆様、御審議をお願いいたします。

坂田委員。

坂田委員 まず全体として、この区の調査研究報告書と、それから都教委の資料、それから展示会のアンケートを参考に検討させてもらいました。この後、まとめて意見を申し上げたいと思います。

各教科書全体として、ユニバーサルデザインに配慮されていますし、ダイバーシティについても一段進んだ配慮がなされるようになってきているかと思います。したがって、そういった点につきましては、各教科書十分な条件を満たしているということで、その点については全体として確認したということにいたします。

あとアンケートの中では、内容の充実であるとか、それからガイドの充実ということで、教科書全体として前回のものよりもいい方向で改善されているという意見が多かったかと思えます。

国語ですけれども、まず東京書籍ですが、東京書籍は比較的初任の先生方にも指導を導いてくれるような、そういった配慮が行き届いているかと思えます。また、内容としては、教室内での対話を重視したつくりになっているかと思えます。5年生以降になると、国語プラス社会といいますか、そういった社会的な要素も多く入っていて、さらに6年生になるとインターネットでの議論であるとか、宇宙や地球の未来といった現代的な話題を取り上げているところは好感触です。

教育出版ですけれども、巻末に付録があって、付録に学びの項目が整理されてまとめられています。全般に低学年については、平均よりもやや難易度が高い印象がございました。特に小学1年生の上巻と下巻を比べますと、上巻と下巻で結構大きな差があると思えました。

3番目に、光村図書ですけれども、言葉、書く、話す、聞くということで、その流れがよくできていると思えます。また、3社の中では最もゆったりとした感じのつくりになっていると思えます。

4年生以降になりますと、それぞれの国語を学ぶ際の論点というのがよく整理をされて、それに基づいて教科書の進め方が構成されているように思います。例えば4年生で「要約するとき」というのが出てくるのですが、要約については説明文と物語文でどういう要約をすべきかということについて分けて説明をされていて、その後で共通点を述べられているということで、非常によく考えられた論点と、それに対する解答になっているのではないかと思います。

5年生以降になると、かなり学びの密度が濃くなって、今、申し上げたような重要な論点

が多く整理をされて出されているような印象です。

1年生の導入部分はいずれの教科書も親しみやすくできていまして、いい教科書だとは思いますが、私としては相対的に見て光村図書出版の教科書がいいのではないかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。小林委員。

小林委員 これから各教科の教科書についてコメントを述べさせていただきたいと思います。

各社の教科書を詳細に検討した上で、幾つかの資料を参考にいたしました。参考にさせていただいたものとしては、1点目が東京都教育委員会から出されました教科書調査研究資料です。2点目としましては、令和6年度使用小学校教科用図書調査研究報告書でございます。そして3点目ですが、荒川区の教育実態ということでアンケート、先ほど御紹介がありましたけれども、約500枚のアンケート、また、荒川区の学力調査の結果及び荒川区の地域性ということで検討させていただきました。以下、教科書の中で優れていると考えられるものを何種類か取り上げてコメントしていきたいと思っております。

まず国語ですが、光村が優れていると思っております。まず1番目ですが、取り上げられている作品ですが、これまで名作とされて、また、教材研究が行われてきた作品であるということです。また、今回の改訂ですが、新しい作品も取り入れておりまして、時代状況に合わせた作品の選定が行われていると思っております。

2番目ですが、文学的な作品が多い、詩歌が充実しているということを挙げておきたいと思っております。

また、3番目として、書くことについての短歌、あるいは俳句といった文学的な文章を書く内容が多くなっております。文章を書く意味というのは何なのだろうと考えたときに、記録ということも非常に大切だとは思いますが、一方で自分を表現したり、作品を創造したりという意味でも文章を書くことは非常に重要であると思っております。ここを光村は押さえているのかなと思っております。

4番目としましては、荒川区との関連ということで、図書館の紹介の中で荒川区のゆいの森が写真入りで紹介されております。小学生にとってみても自分たちの図書館が全国で使われる教科書に掲載されていて、それほどまでに優れた図書館であるということを知ること、荒川区のことを誇らしく思えるのではないのでしょうか。

そして5番目ですが、QRコンテンツでの作品の朗読がありますが、これが非常に優れていると思っております。

最後6番目、軽くて扱いやすいものになっております。なおかつ絵、カラーなど全体とし



で優しい印象で落ちつきがある、そういった点が指摘できるのではないのでしょうか。

2社目ですが、東京書籍です。1点目としましては、説明、あるいは報告等を多く取り上げておりまして、その分析に非常に優れていると思っております。現代社会におきましては、グローバル化が進行しておりまして、外国との交流も増える中で論理的な思考、ロジカルシンキングというものが重要視されています。したがって説明文、あるいは報告文を多く読んで、分析力を鍛えるということは非常に重要だと思っております。その意味では優れた教科書ではないのでしょうか。

2点目ですが、QRコンテンツが非常に充実していることを挙げておきたいと思っております。

3点目ですが、現代的な内容が充実しておりまして、例えばインターネット投稿を読み比べようといった、そういった内容があります。

教育出版ですが、6年生も上下の分冊になっておりまして、取り扱いに非常に便利な点がよいと思われましたし、また、心に残る作品が多いというのも指摘させていただきたいと思っております。

3社とも非常に優れた教科書であると思っております。ただ、インターネットによる情報が氾濫している、そういった中で、国語というのは文学的な作品をゆっくりと鑑賞する、あるいは文学的な作品を作る、そういった貴重な機会であると思っております。その意味では文学的な作品を掲載して、文学的な文章を書くことに力を入れている光村は優れているのではないかと考えております。

以上です。

教育長 それでは繁田委員、いかがでしょう。

繁田委員 私もほかの委員の先生と同様に、教科書そのものだけでなく、調査研究報告とアンケートを大いに参考にさせていただきました。いずれの教科書も興味深く拝見をさせていただきましたけれども、拝見しておりまして国語の教科書の難しさというか、児童の読解力によって多分読める長さといいますが、耐えられる長さが恐らく違うのだろうなど。誰でも読めるようなものというのと、どうしても短くなってしまって、国語に求めたい、文学を味わってもらおうという部分が減ってしまうでしょうし、かといって長い文章が多いと最後まで読み切れない児童が出てくるというところで、その辺りを三つの会社とも本当に工夫して研究されているような印象を受けました。

教育出版に関しましては、示そうとしている題材の雰囲気というのが非常によく、はっきりと私は感じ取ることができました。それが一つの魅力かなと。物語でしたら登場人物の性格を考えながら読ませる工夫があったように思います。

東京書籍に関しては、流れが分かりやすい、手慣れた教科書の会社でいらっしゃるのだろうなど、上手にお作りになっている、人物を捉える魅力も伝わってくるものでした。

光村図書に関しては、3社の中では一番先生らしさが出せる教科書かなと感じました。先生の魅力が伝わってくる。その一方で同じ材料ではなくて、題材ばかりではなくて、変えていくことで、どうしてもずっと同じ材料ですと先生方もよくも悪くも慣れていらっしゃる、慣れてくるのが必ずしもいいとは限りませんので、ちょうどいい頃合いのところでは題材を変えてきていらっしゃるところは、とても私は好ましい印象を受けました。

以上でございます。

教育長 それでは長島委員、いかがでしょう。

長島委員 選定に当たって、都教委の教科書調査研究資料と、それから教科用図書見本展示会アンケートを参考にしたというのは、これまで先生方がおっしゃられたことと同様であります。

国語についてですが、東京書籍と光村が第1学年から第4学年までは上下巻、2分冊になっていて、第5学年と第6学年が1冊ずつ上下に分かれず、教育出版は第1学年から第6学年まで上下巻、2分冊となっております。見本展示会のアンケートに、年間1冊だと重くて子どもの負担になるという意見と、高学年で年間1冊の方が学習の見通しがついたり、漢字を振り返ったりしやすいという意見がありました。教科書の重さについては、検討していかなくてはならないことだと思いますけれども、今回の選定に際してそのことは特に考慮はしませんでした。

3社、読むこと、書くこと、それから話すこと、聞くことのそれぞれについて工夫した単元を設定していると思いました。書くことについていえば、東京書籍が第6学年だったと思いますが、提案書の書き方というのを取り上げています。それから、教育出版は第4学年の上巻で、「自由に想像を広げて書こう」ということで、「作ろう！『ショートショート』」という単元、それから第6学年の上巻で、「てんかいを工夫して物語を書こう」、単元名は「あなたは作家」だったと思いますが、そういうのを設けておりました。それから、光村図書は第6学年で「文章を推敲しよう」というのを挙げていました。非常に興味深く思いました。

それから、光村図書の第3学年の上巻の「情報」という項目だったと思いますが、引用、それから出典、奥付に関して取り上げていて、荒川区で「図書館を使った調べる学習コンクール」とか、それから「あらかわ小論文コンテスト」といったものを行っていますが、有益ではないかと思いました。ほかの2社がそういったことについて取り上げていないということではありません。

それから読むことについては、説明的な文章、それから文学的な文章、詩歌、古典、3社

それぞれ印象的な作品が掲載されていると思いました。

光村図書の第6学年で、インターネットでニュースを読もうというものがありませんでしたが、時代に即したものであると捉えました。そして、同じ光村図書の第6学年、最後の方で谷川俊太郎さんの「生きる」という詩と、それから福岡伸一さんの「人間は他の生物と何がちがうのか」というのが取り上げられていて、子どもたちの次の生活とといいますか、中学校への学びにつなげていくものとして、よいものではないかと思いました。

以上、述べましたように、各社それぞれよいところはありますが、総合的に判断して国語については、光村図書を選定したいと思いました。

以上です。

教育長 それでは、私からも幾つか発言をさせていただきます。本日は教科書会社の方々も多数傍聴においでいただいていますけれども、教科書改訂のたびに大変充実した内容になっていると改めて教科書会社の皆様の御努力に感謝申し上げます。

とりわけ二次元コード、タブレットを使ったデジタル学習に際して、学校での授業の場面で実際に二次元コードを読み取るというところまでは、毎時間それほど余裕はないわけですが、コロナ禍にあって、あるいはまたこれからも感染症により自宅学習を余儀なくされる場面も出てくることも想定されますけれども、その際にも教科書1冊あれば自宅学習がかなりの部分まで具体的に可能である、参考図書も含めて見ることができるという意味では、国語の教科書1冊あれば参考書を用意しなくても自分で勉強ができるというところまで教科書が進化しているという点について、大変ありがたいと思っています。

幾つか申し述べさせていただきますと、中でも東京書籍については、練習問題等も二次元コードを読み取ると検索することができまして、教科書と資料と併せて大変充実した内容になっております。また、写真やイラストの使い方も大変工夫されておりまして、子どもたちにとっては見やすい教科書になっていると思いました。

また、教育出版については、これは他の教育委員さんたちもおっしゃっていましたが、5年生、6年生も2分冊されておりまして、子どもたちの通学の際の負担軽減にも大変効果があるのではないかなと思いましたし、単元学習に際しまして段階的に「たしかめよう」、「くわしくよもう」、「まとめよう」、「つたえあおう」、「ふり返ろう」ということで、発展的に学びを深められる、そういったサジェスションとといいますか、誘導も示していただいております。また、「ここが大事」ということで、単元学習のねらいが明確に示されているのもいいと思いました。

そして、光村図書出版ですけれども単元のねらいを、「問いをもとう」、「目標」ということで冒頭に示されて、「とらえよう」、「ふかめよう」、「まとめよう」、「ひろげよう」、「ふり

かえろう」という形で、段階的に様々な学びを通して理解を深め、学び合いができるように、そういった構成になってございます。

また、各社とも、荒川区が大変重要視しています図書館教育、読書教育についてとても資料が充実してまして、各単元に絡んでこういった図書を読んでではどうかというようなことで、学校図書館のさらなる充実、あるいはまた学校図書の指導にも大変生かせるのではないかと考えた次第でございます。総じてどの教科書も大変工夫されていると思った次第でございます。

ただいま、各委員の皆様から御意見、御発言を頂きました。委員の皆様から事務局に対する御質問等ございましたら、お願いいたします。特になければ、採決に移らせていただいてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 議案記載の順に発行者名をただいまから挙げさせていただきます。御自分の採択しようとする発行者の名前が挙がりましたら、挙手していただければと思っております。それでは順に挙げさせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 0名ですね。

教育出版がよいと思われる方、お願いいたします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 5名の方が光村図書出版をよいと思われるということで挙手をさせていただきました。

光村図書出版の教科用図書を国語の教科書として採択いたしたいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、光村図書出版について、教科「国語」、種目「国語」の教科用図書として採択することと決定いたします。

続いて教科「国語」、種目「書写」の審議、採決をいたします。

指導室長から、書写について説明がございまして。

指導室長 では、続きまして教科「国語」、種目「書写」について調査研究のまとめを御報告いたします。

「新しい書写」、東京書籍でございます。表現につきまして、発達の段階に合わせて、「とん」「すう」「ぴた」「ぴょん」等の擬音語の表現を使い、文字の書き方を表示しております。

次に「小学 書写」、教育出版でございます。学習活動につきまして、目次の下欄に「何年生で学習すること」がまとめられており、学習の見通しを持たせる工夫がなされております。

続きまして「書写」、光村図書出版でございます。表現につきまして、ねらいに沿った表記ができているか、比較しながら考えさせる提示がなされております。併せて「俳句相撲」で荒川区の作品が取り上げられております。

以上でございます。

教育長 ただいま教科「国語」、種目「書写」についての説明がございました。御審議お願いいたします。

坂田委員、どうぞ。

坂田委員 書写につきましては、いずれも大きな違いはなくて、そういった大きな違いのない中で、中の個別の項目について少し詳しく検討をしてみたものです。

まず教育出版ですけれども、学年が上がりますと、やや全体の中では発展的な学びを扱っておられるなと思います。例えば「枕草子」であるとか、それから小筆を生かして書くといったような、かなり発展的なテーマも取り上げておられるように思います。

東京書籍ですが、東京書籍は3社の中では最もシンプルなつくりになっていると思います。3、4年生については、淡々と材料を提供されているような教科書です。6年生になると東京書籍もかなり発展的な学びになっていると思います。

光村図書ですが、光村図書は特徴としては学んだことを日常生活の場面で展開をする、そういったことをかなり意識して作られているように思います。例えば原稿用紙の使い方であるとか、それから今は横書きで書くことが多くなっているわけですが、横書きで書くことの書き方であるとか、5年生ですと書くときの速さ、これは実例のケースによって書くときの速さが違って来るわけですが、そういったものを考えさせるということも取り上げておられて、私としては、大きな差はないのですけれども、実際の場面でのこの書写の活用について丁寧に取り上げられている光村図書を一番に挙げたいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

それでは小林委員、お願いします。

小林委員 書写ですけれども、各社ともに非常に優れた教科書であると思いながら検討させていただきました。ただ、書写に関しましては、国語と同じ教科書がいいのではないかと思っ

ております。そのため光村が国語の教科書と連結した教材を設定しておりますので、適切であるように思われました。

また、光村ですがSDGsに配慮した教科書づくりになっておりまして、その点も優れた点であると思っております。さらに付け加えるならば、QRコンテンツも非常に充実していると思っております。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。

教育長 ありがとうございます。

では、繁田委員、お願いします。

繁田委員 いずれも分かりやすく、使いやすいと思えました。これに関してアンケートを参考にさせていただきたいのですが、国語の教科書で光村を選んでいる先生でも、書写で光村をとるのが散見されまして、多分、先生方がお使いになりやすいのかなと。私個人の印象としては、先生が一番というか、しばしば児童に注意したいところが大きく写真で見せてくれているというのが印象に残りました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、長島委員、お願いします。

長島委員 書写ですので、筆順とか点画の書き方というところが大事になるかと思うのですが、それ以外のところで興味深く思ったところを幾つか挙げさせていただきます。

例えば東京書籍では、手書き文字と活字ということで、活字は明朝体とゴシック体を示していたり、それからインタビューのためのメモをとろうとか、発表のためのポスターを描こうなどといったものが挙げられていました。

教育出版でも、「活字について知ろう 手書き文字との違い」、メモのとり方、リーフレットについてなどありました。

光村図書では、タブレットを使う姿勢とか、タブレットを活用しようといったことが挙げられていました。それから電子メール、タブレットの付箋などについても取り上げられていました。

それと、取り上げられている文字とか文章について、例えば短歌などが国語の教科書と各社対応している場合もあれば、そうでない場合もあったかと思いますが、これについてはできるだけ対応しているほうが授業を進めやすいのかなと思えました。

教科用図書見本展示会のアンケートに、国語と書写の教科書が同じ会社のものだとノートのとり方等の指導がしやすいという意見もありました。別々でよいということも当然あるわけですが、私自身は国語の教科書と同じほうがよいのではと考えました。ということで、光

村図書ということになるかと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

それでは、私からも印象に残った点について、何点か申し述べさせていただきます。まず東京書籍については、1年生の書写で左手の持ち方が大きく写真入りで分かりやすく示されておりましてとても印象的でした。学校訪問をしますと左手で鉛筆を持ったり筆を持って、授業を受けている子どもたちが少なからず見受けられますけれども、そういった子どもたちにも配慮した内容になっていると思った次第です。

また、教育出版については、ここが大切ということで、重要なポイントが分かりやすく示されているのがとてもいいのではないかと思った次第です。

また、光村図書出版については、先ほど長島委員からお話がありましたように、鉛筆や筆の練習だけではなくて、タブレットを活用しようということでタブレットの活用事例やタブレットを使うときの姿勢、注意しておいたほうがいい姿勢についても示されておりまして、「書写ブック」には書写の活動を通してどんな形で他の活動に生かせるのかという活用事例も示されていたのがとても印象的でした。

それでは、皆様から一通り御意見を頂きましたので、特に御質問等がなければ、ただいまから採決に移らせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは「国語」のときと同様に、議案記載の順にただいまから発行者名を挙げさせていただきます。挙手をしていただき、採決をさせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 0名ですね。

続いて、教育出版がよいと思われる方、お願いします。

〔挙手〕

教育長 0名ですね。

光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 5名の方が光村図書出版ということで挙げられています。光村図書出版の教科用図書を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 教科「国語」、種目「書写」につきましては、光村図書出版の教科用図書を採択する

ことに決定いたします。

続いて、教科「社会」、種目「社会」の審議に移らせていただきます。

指導室長、社会についての説明をお願いします。

指導室長 では教科「社会」、種目「社会」について調査研究のまとめを御報告いたします。

「新しい社会」、東京書籍でございます。内容につきまして、各ページに「つかむ」「調べる」「まとめる」の記載があり、単元の中でどの段階の活動をしているかが分かりやすく示されており、また、一つの二次元コードで教科書全体の資料を閲覧することができるよう工夫されており、

次に「小学社会」、教育出版でございます。内容につきまして、身近な事例を調べる活動を行った上で学習問題を立てるなど、つかむ段階を丁寧に扱っており、児童が主体的に学ぶことができるよう構成されており、また、二次元コードを使ってワークシートを活用したり、動画を見たり、資料が読み取りやすくなる工夫がなされており、

次に「小学社会」、日本文教出版でございます。表現につきまして、ノートの書き方の事例や歴史新聞の見本が載っているため、児童が活動に取り組みやすくなっており、また、二次元コードを使ってワークシートを活用したり、動画を見たり、地図・グラフの凡例別表示ができるよう工夫されており、

以上でございます。

教育長 それでは教科「社会」、種目「社会」についての御審議をお願いいたします。

坂田委員。

坂田委員 まず全体的なことですけれども、3社共通して子どもたちとの対話型の学びということを重視されていて、その対話のための問題を提起し、提起された問題について調べながら考えていくと、そういったつくりには各社ともなっていると思います。社会に関する基本的な学び方としては、私もそういった方式が好ましいと考えておりまして、その点については3社とも基本的に同じ構造になっていると思います。

一方で、若干これも3社共通なのですが、私の視点から見ますと現在の産業構造の変化の実態と比べて、いわゆるソリューションビジネスと呼ばれるような、現代的なサービスの取り上げ方がやや少ないのかなと各社共通して思いました。

個別についてですが、まず東京書籍ですけれども、3年生の導入が「わたしたちのまち」から入って、かなりページ数が割かれているのですが、導入が非常に親しみやすく作られているなと思います。また、6年生の歴史ですけれども、歴史は6年生になって学ぶところがあって、その6年生の歴史に対しても写真が多くて、取り組みやすい形になっていると思います。歴史は子どもたちが興味を持ってくれるかどうかで学びの深さが全然違って



きますので、そういったところはよく配慮されたつくりになっているなと思いました。

それから教育出版ですけれども、3年生の地図が親しみやすい工夫ができていて、地理も結構子どもたちの中にはとっつきにくいと考える子どもたちがいる実態がありますけれども、親しみやすい地図のつくりになっていて、そういった導入のところはかなり工夫をされているなと思いました。

また、教科書全体共通して何を学ぶのかというテーマが太字で冒頭に簡潔に分かりやすく記載されていて、この点は子どもたち、若しくは教える先生から見て使いやすいのではないかと思います。

それから歴史のところですが、歴史のところはそこに出てくる図や挿絵といったものが、非常に効果的に使われていて、述べられている内容と非常によく組み合わせられてマッチしていると思います。

一方で、SDGs、ちょうど今、目標までの中間点に来ているわけですが、SDGsに関しては6年生の最後の方にありますけれども、やや取り上げ方が少ないのではないかと思います。

日本文教出版ですけれども、やはり知識より対話ということでありますけど、3社の中で最もじっくり考えさせるような、そういったつくりの教科書になっています。いい面と、それから現場の教員の方々からするとやや自由度が小さいというか、よしあしがあるかなとは思いました。

SDGsに関しては、3社の中ではやや多めの取り上げ方になっていて、最初に申し上げた現代的なサービス、ビジネスに関しても、5、6年生になると情報を生かして発展する産業ということで、やや多めに取り上げられているように思います。

全体としていずれも十分な内容だと思いますが、子どもたちへの教えやすさ、若しくは子どもたちの学びやすさという点で、やや教育出版が有利ではないかなと思いました。

以上です。

教育長 小林委員、いかがでしょう。

小林委員 各社の教科書ともに、資料を読み取ってそこから考えるということを非常に重視した教科書のつくりになっていると思われました。それを踏まえた上で簡単にコメントをさせていただきます。

まず東京書籍ですが、1点目としましては、6年生で国際政治編と歴史編とに分冊になっている、これが非常によいのではないかと思います。一般的に教科書が大型化して重くなっておりますので、軽いほうが使いやすく便利のように思いました。

そして2点目ですが、歴史編など資料が豊富であるという点です。例えばいわゆる赤紙と

いわゆる召集令状の写真、これは6年生ですけれども、そういった形で写真が充実しており、写真がなおかつ鮮明で分かりやすく、レイアウトもいいのではないかと考えております。

また、資料ですが、提示されている資料が正確と思われる。例えば江戸時代のところで、「解体新書」というのがあるのですが、これは杉田玄白、前野良沢の2人の絵が紹介されています。実際は、著者としては杉田玄白だけになっているのですが、実質的に翻訳は前野良沢が中心であり、杉田玄白は清書係と言われておりまして、実質的な翻訳者である前野良沢の絵が掲載されているのは非常によいのではないかと考えました。

3点目ですが、QRコンテンツが充実している点を挙げたいと思います。

4点目としては、つかむ、調べる、まとめる、ひろげるという形で、段階を踏みながら学習する内容が工夫されています。

次、教育出版です。教育出版ですけれども、何をここで学ぶべきか、それが非常に明確な教科書であると思えました。そのために指導がしやすいと考えております。

2点目ですが、この教育出版ではカラー化した写真をかなり使っておりまして、例えば戦前に、あるいはまた戦後に撮影した写真、もともとは白黒、空襲で焼け出された人々とか、こういった写真はもともと白黒だと思うのですが、これに彩色を施しております。もともとの写真、つまり資料に忠実にという点ではカラー化することに議論の余地はあるかもしれないのですが、ただし小学生にとってはイメージしやすいという利点があるのではないかと考えます。

3点目としては、現代的な話題が取り上げられているということを目指したいと思います。

日本文教出版の教科書も優れていると思えました。特にQRコンテンツで見せていただいたのですが、高度経済成長の動画であるとか、精選されたいい資料がQRコンテンツの中に入っておりまして、その点は非常に優れています。

全体としては、社会科については資料が非常に重要だと思います。まず資料を見て、資料を読んで、資料に基づきながら考えて、社会を理解するということが非常に重要と思われる。その意味で資料が充実しており、また、正確であるということから、東京書籍が相対的にはいいのではないかと印象を持ちました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、繁田委員。

繁田委員 小林委員とかぶりますけれども、資料に関して私はどの会社も本当に興味深く拝見しました。

具体的に申しますと、東京書籍は、つかむ、調べる、まとめるとありましたけれども、特

に私はつかむ、調べるがかなり吟味をして設定をされているなという印象を受けました。それから、社会という科目に関しては、分冊化というのは大きなメリットがあると感じました。

教育出版に関しましては、絵とか写真が多くて、それは分かりやすいというのはあるのですが、それ以外に文字がフォントの関係か、大きさの関係か、行間の関係なのか、非常にしっかり目に入ってくる印象を受けました。その意味では非常にいい印象を受けています。それから写真の情報が1枚の写真、写真の数というよりは1枚の写真の中の情報が多い、そういう写真を選んでいるというのもいい印象を受けました。

それから日本文教出版に関しては、情報がほかの2社に比べると非常に多い、能力がある児童はより多くを吸収できる教科書だという、ほかの二つに比べると資料的なよさというものがさらに強く持っている教科書だという印象を受けました。

以上でございます。

教育長 ありがとうございます。

それでは、長島委員、お願いします。

長島委員 第3学年の「わたしの町」、それから第4学年の「わたしの県」というところでは、東京書籍、教育出版、日本文教出版の3社とも具体的な市や県を取り上げて、写真や図表を活用して極めて分かりやすく示されていると思いました。

それから学習の進め方についてですが、3社とも表現は少し異なっていますけれども、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」、「つなげる」、「役立てる」という流れで、ほぼ同じになっています。調べるという段階で、教科書に何をどこまで書くかということについては、工夫が必要なのではないかと思いました。調べるべきことがほとんど書かれてしまっているのではないかというところもあったように思います。

それから第5学年、第6学年は、東京書籍が2分冊で、教育出版と日本文教出版は年間1冊になっています。総ページ数は大きく違ってないかと思います。東京書籍の第6学年、2分冊ですが、歴史編と政治・国際編、2分冊になっていて、先ほど小林委員からも意見がありました、分かりやすい。小学校教科用図書の見本展示会のアンケートにも、こういうふうに分かれていると扱いやすいという意見もありました。そういう面もあるかと思いますが、教育出版と日本文教出版のように、1冊の中に政治と歴史が入っていると、政治と歴史をつなげて見ていくということで、よい面もあるのではないかと考えます。

授業の流れ、授業の進め方という観点を重視して、3社の中で教育出版を推したいと思えます。

それから、余計なことになるかもしれませんが、3社とも第6学年で日本国憲法の前文を取り上げています。その要約を示しているわけですが、国語教科書の古典で「枕草子」

とか「方丈記」とか、「徒然草」とか、あるいは「論語」とか漢詩まで取り上げているということと比較すると、社会の教科書で憲法の前文も要旨要約だけではなくて、原文を示してもいいのではないかなと思ったというのが感想です。

以上になります。

教育長 ありがとうございます。

私からも何点か申し上げさせていただきます。3社の教科書について、地理、歴史、公民をそれぞれ見させていただきましたが、3社とも大変バランスのとれた構成になっているというのが第一印象でした。日本の国土についてもしっかり書かれておりますし、歴史認識等についても特に問題になるような記述は見受けられませんでした。また、公民の分野においても、社会の一員として子どもたちが身につけるべき知識を分かりやすく解説しているというのが印象的でした。

教育委員の先生たちとかぶらないように、若干特徴的なところを申し上げますと、東京書籍については、やはり二次元コードの資料が大変充実しているという印象を受けました。自分で学んだ内容をしっかり理解しやすい構成になっておりまして、まとめるという項目では、学習内容のチェックに活用できるのではないかと思った次第です。

また、教育出版の教科書については、情報ネットワークとかICTに関する内容が他の会社と比べて充実しているという印象を受けました。加えて、「みんなで作った学習問題」ですとか、「この時間の問い」とか、「次につなげよう」など、子どもたち自身が主体的に、そしてグループ学習で考え合うというか、学び合う設問が多く掲げられておりまして、そういった意味ではただ単に知識として学ぶだけではなくて、自分で知識を深めるといいますか、子どもたち同士で学びを深める、そういった工夫がなされておりました。

また、日本文教出版については、これも教育委員の方々から御指摘があったように、とりわけSDGsに関する記述が大変充実していて、豊富で、そういった意味では現代の課題の把握、あるいはまた子どもたちが未来社会に向けて考えるべきテーマというのが、明確に示されていると思った次第でございます。

先生方から御意見を頂きましたけれども、特にそのほかないようであれば、採決に移らせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、これも議案記載の順に発行者名を挙げさせていただきますので、挙手をお願いしたいと存じます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

続いて、教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 4名ですね。

日本文教出版がよいと思われる方は当然いないですね。

4名の方が教育出版ということで挙手をしていただきましたので、教科「社会」、種目「社会」につきましては、教育出版の教科用図書を採択することにいたしたいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、そのように決定いたします。

続きまして、教科「社会」、種目「地図」の審議、採決をいたします。

指導室長、地図についての説明をお願いします。

指導室長 では、教科「社会」、種目「地図」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 新しい地図帳」、東京書籍でございます。内容につきまして、巻頭の8ページを使い地図の仕組みと約束事について、漫画仕立てで紹介しており、児童に分かりやすい工夫がされております。学習活動につきまして、「ホップ、ステップ、マップでジャンプ」のコーナーで、レベル分けされた三つの問題が掲載され、児童が楽しく学べる工夫がなされております。

次に「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」、帝国書院でございます。内容につきまして、巻頭で14ページにわたり地図の概念から使い方までを丁寧に説明しており、地図の活用の技能が身に付きやすくなっております。表現につきまして、配列を「広く見渡す地図」、「日本の各地方を見る地図」、「世界の地図」の順にし、活用度の高い使用学年ごとにまとめられているため、児童にとって学習しやすいものとなっております。

以上でございます。

教育長 教科「社会」、種目「地図」についての説明がありました。御審議をお願いいたします。

坂田委員。

坂田委員 地図ですけれども、今の説明にもありましたとおり、地図帳の使い方、若しくは地理に関する学びであるとか、地図に関連した内容も豊富に取り入れられていると思いました。2社に大きな差異はないと思います。大きな差異はない中で、私は帝国書院の方がややいいかなと思ったのですが、その理由としては地図の色調が明るくて、見やすい感じがします。

また、地図の配列の順番が広く見渡した後、地域別、さらにその中のフォーカスと、広いほうから狭いほうに順番になっていまして、構成の統一感が徹底されているところもいいかなと思いました。

それから海外の地図なのですが、一番よく見そうなのはアメリカではないかと思うのですが、アメリカの地図は帝国書院ですと93ページ、94ページ、東京書籍ですと63ページ辺りにあるのですがけれども、見渡すと帝国書院の方が親しみやすい感じで、見やすいように思います。

以上、大きな差異はないのですが、地図としての見やすさを考えますと、帝国書院の方がややよいのではないかと考えました。

以上です。

教育長 小林委員。

小林委員 帝国書院、東京書籍ともに非常に工夫されている地図帳であると思います。しかしながら帝国書院の方がいいのかなという気がいたしました。理由を述べさせていただきます。

まず1点目ですが、色が鮮明で非常に見やすいと思われまます。

そして2点目ですが、QRコンテンツが非常に充実しております。QRコンテンツを読み取りますと、各県ごとの地図がありまして、例えば千葉県とか埼玉県とか、そういった地図があるのですが、1枚の地図だけではなくて、県全体、地形、土地利用、交通、主な農林水産物、主な工業、主な伝統文化、先人などに分かれておりまして、理解を助けてくれるものでございます。

それと3点目ですが、実際に手にとってみると非常に扱いやすく、めくりやすいというか、使い勝手がいいのですね。その点もやはり地図帳というのはとても重要だと思っております。

一方、東京書籍ですが、QRコンテンツを見せていただきまして、これは非常に充実したもので、外部リンクなども紹介されておりまして、とてもいいと思いました。

相対的に考えると帝国書院の方がいいかと思っております。

以上です。

教育長 繁田委員。

繁田委員 どちらも児童が調べやすい地図だと思います。ただ、私が両方を見比べてみますと、帝国の方が例えば平地と山との色使い、海の色とか、いわゆる本来のというか、地図の標高差とか、そういうものがより目に入ってくる。東京書籍の方は、字が強く目に入ってくるという、そんな違いがあったように思います。その関係かと思うのですがけれども、長時間見ていて疲れないうのは帝国かなという個人的な印象も含めてですけれども、感じました。

あと小林委員と同じなのですが、本のやわらかさですか、ページをめくることが多

い教材だと思いますので、やわらかくて手になじむのは帝国かなという印象を受けました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 地図の色使いとかコントラストという点、見やすさということになるかと思いますが、甲乙つけがたいというような、どちらかと特には思わずに、どちらもという印象を受けました。

世界地図については、帝国書院の方が充実しているのかなという、これも印象になります。

それから荒川区に関連するものとして、東京書籍の方には汐入公園とか、あらかわ遊園などが、帝国書院にも汐入公園とか、それから荒川区役所などが掲載されているということ、これは確認したということだけになります。

地図に親しませようという意図からだと思いますが、東京書籍は「ホップ、ステップ、ジャンプ」という欄を、帝国書院は「地図マスターへの道」という欄を設けています。地図帳を使ったクイズといいですか、それは子どもたちも楽しめるとと思いますが、比較すると帝国書院の「地図マスターへの道」の方をどちらかという面白いかなと思いました。

総合的に判断してということになりますが、帝国書院を推したいと思います。

以上です。

教育長 それでは、私からも何点か申し上げさせていただきます。両社の地図見させていただいて、まず見やすさという意味では、何人かの先生がおっしゃいましたが、帝国書院の方が見やすいかな。東京書籍は情報量が多いのですが、ぱっと見るとごちゃっとしている印象がありました。

また、首都東京、拡大、5万分の1の地図についても比較したのですが、東京書籍は工夫して荒川区全体が分かりやすく掲載されているのに対して、帝国書院は尾久地域がちょっと欠けている。どうしても5万分の1の地図なので、23区全体というわけにいかないのかもしれないのですが、何とか工夫のしようがなかったのかなと、それが残念です。

一方で、東京書籍については、これは前回の採択のときにも申し上げたのですが、「奥の細道」旅立ちの地が、足立区の北千住になっています。これは歴史上も南千住か北千住かということで疑義が残っている部分であろうと思っているのですが、それを北千住に記されているのは、荒川区としてはちょっと承服できかねるなというところがございます。そんなところが印象的でありました。

そのほか委員の皆様、御意見、あるいはまた御質問等ございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 特にならなければ、採決に移ります。それでは、議案記載の順に発行者名をただいまから申し上げます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 続いて、帝国書院がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 東京書籍が1名、帝国書院が4名ということでございますので、教科「社会」、種目「地図」につきましては、帝国書院の教科用図書を採択することに御意義ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議ないものと認めます。帝国書院の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「算数」、種目「算数」の審議、採決をいたします。

指導室長、「算数」についての説明をお願いします。

指導室長 では教科「算数」、種目「算数」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

まず「新編 新しい算数」、東京書籍でございます。内容につきまして、吹き出しのキーワードで内容を系統的に考えられるように構成されております。学習活動につきまして、まとめの場面において、知識技能的なものだけでなく、考え方に焦点を当てております。問題解決に使った見方、考え方を大変見やすく押さえており、いろいろな場面で使えるよう児童の学習意欲を促すようになっております。

次に「新版 たのしい算数」、大日本図書でございます。内容につきまして、同じ領域の単元同士をある程度まとめ、構成されております。学習活動につきまして、問題解決に使った見方・考え方を押さえ、定着できるように構成されております。

次に「みんなと学ぶ小学校算数」、学校図書でございます。内容につきまして、数学的な考えを理解しやすいように配慮されております。表現につきまして、実際の生活を想起させるような場面の資料があり、児童が進んで学習ができるようになっております。

次に「小学算数」、教育出版でございます。内容につきまして、巻頭、巻末の資料が充実しており、数学的な見方、考え方や図の書き方など、理解を促す工夫がなされております。学習活動につきまして、吹き出しの「問い」の連続で学習を進めており、深い学びにつながる構成となっております。

次に「わくわく算数」、新興出版社啓林館でございます。内容につきまして、巻頭で「考えの進め方」として四つにまとめており、単元の内容もこの「考えの進め方」に対応して構成されております。学習活動につきまして、巻頭では算数で使いたい考え方をまとめ、巻末



では前の巻までの学習事項と本冊でのつながりをまとめ、児童が既習事項をいつでも確認できるようにしております。

次に「小学算数」、日本文教出版でございます。表現につきまして、めあてやまとめが記号、色、表記等工夫され、見やすいものとなっております。学習活動につきまして、汎用的な見方・考え方、場面に応じた具体的な視点が豊富に記載されており、児童の思考を発展的に促すよう工夫されております。

以上でございます。

教育長 教科「算数」、種目「算数」についての説明がありました。御審議をお願いいたします。

坂田委員。

坂田委員 算数につきましては、私は計算ができることや問題が解けることに加えて、自分がやっていることが直感的に分かっていくような学びが大事だと思います。直感的に理解できることで記憶に残るとともに、次の段階の学びの基盤となります。その意味で各社その点については非常に工夫をされていて、子どもたちが自分たちが解いていることを直感的に理解できるような工夫が随所に見られていると思います。

そういった前提で、私は特に、算数ですので子どもたちが引っかけりそうなところがいろいろあって、そういったところが分かりやすく教科書として解説等されているかどうかということについて、重点を置いて調べてみました。

結果としては、私は東京書籍が一番よいのではないかと考えます。東京書籍の教科書は、作りとしては非常にシンプルで、過不足がなく使いやすいのではないかと思います。子どもたちの学びの段取りに合っているような印象です。子どもたちが算数を解いていく中で、不思議に思うようなところにマッチした論点が設定をされていると思います。例えばお皿の数が増したときに、すしの数の求め方を考えようというのが2年生の下巻にあるのですが、アンケートにも実生活と結びつけて教えているとありましたけれども、まさにそういった形で低学年の子どもたちの実生活に結びつけながら、子どもたちの不思議に答えていると思います。

それから3年生になると、上巻の方では例えば「算数の目」ということで、大切な見方を教えていると思います。3年生の下巻以降になると「考えよう」というのが多くなってまいりまして、それから子どもたちが詰まりそうな部分ですけれども、例えば直方体ですね。二次元から三次元になるということですが、そういったところについて直感的に分かっているかということについて、チェックポイントが十分にあって、図も分かりやすいと思いました。

それから5年生の上巻ですけれども、直方体と立方体の比較もしているのですが、図とそ

れから色で表す部分をうまく組み合わせて、直感的に理解ができるようなものになっていると思います。アンケートの中では、解法の流れが明確でよいという意見がありましたけれども、私もその意見と同じです。

大日本図書ですけれども、東京書籍に比べると少し発展的な内容でコラム的なものが多いと思います。例えば2年生の「公園たんけんに行こう」だとか、それから5年生の「なるほど算数教室」ですけど、やや難易度が高めになっていると思います。子どもたちが引っかかりそうなところについては、先ほどの東京書籍と同様に、図と色をうまく使って解説をされていると思います。論点の一つである三次元、直方体の理解のところですけども、やや難しめかなと思います。それからその後、三次元の位置の表し方が出てくるのですが、これは結構子どもたちにとっては初めての認識で、ちょっと難しいところだと思うのですけれども、2ページでやや説明が少ないかなと思いました。

学校図書ですけれども、1年生の導入はすごくなじみやすいものになっていると思います。同じく直方体、これは4年生ですけれども、見取り図の描き方は2通りあって、解説も丁寧なのですが、もう少し説明があったほうが分かりやすいのではないかと思います。それから空間への展開として位置の表し方がありますが、そこは最小限かなと思いました。一方で、正三角形の決まりだとか、それから円の性質、これは5年生の下巻ですけども、その辺は分かりやすいストーリーになっていると思います。

いずれも、この3社を代表して申し上げましたけれども、ほかの教科書も含めて最初に申し上げたとおり、直感的な理解についてはかなり丁寧にそういった学びができるようになっていると思います。

ただ、総合的に見て、東京書籍を私は第一に挙げたいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

では、小林委員。

小林委員 算数ですが、具体的なものを抽象とどう結びつけるのが教科としては大事かと思っております。その中で、各社非常に充実した教科書を作っておられるのですが、私自身は見せていただいて、2社ほどよかったと思っておりますので、御説明をさせていただきたいと思えます。

まず東京書籍です。1点目ですが、児童にとって身近な事例、例題を出すことで、より具体的に理解することを助ける内容になっているのではないかと思います。例えばデータの調べ方があるのですが、クラス対抗での投げ縄の八の字飛び大会で優勝できる組を予想しようといった、学級活動と結びつけるような内容となっている点を指摘したいと思えます。

2点目ですが、基礎的な内容をきちんと学んだ上で発展につなげていまして、習熟度別の指導にも適しているのではないかと思います。

3点目、QRコンテンツが充実しておりまして、タブレット上でいろいろな作業ができるというのもメリットかと思います。

もう1社挙げたいのですが、これは啓林館です。1点目ですが、算数というのはやはりある事象を数字で表そうとします。抽象的なものではあるのですが、具体的な事例と抽象的な世界を結びつける。坂田先生の言葉を借りると直感的な理解を助ける内容となっていて、これが優れていると思います。例えば対称のところ、平等院の写真が掲載されていたり、イメージと結びつける工夫がされていると思います。

また、2点目としては、提示されている例題ですが、小学生に身近に興味を持ってもらいやすい内容となっております。例えば6年生ですけれども、学校の大縄大会にクラスの三つのチームから1チームを選抜して出すことになりました。練習のときに飛べた回数を基に選抜することになりましたということから、平均、最頻値、中間値などを理解していくということですが、こういった工夫がされているので、算数に対する苦手意識を持つことなく楽しく学べる内容になっているように思われます。

3点目としては、例題や問題が精選されていると思っております。

以上から、東京書籍、啓林館、どちらも非常に優れていますが、どちらかというとならば啓林館が優れているように思われます。

以上です。

教育長 繁田委員。

繁田委員 どれもきちっと説明はされていらっしゃるのですが、私は見やすさ、紙面の見やすさに違いを感じました。例えば東京書籍は、説明している問題と、練習問題のリズムというのですか、流れとといいますか、それが先ほどシンプルな教科書という指摘もほかの委員の先生からございましたけれども、それだからかもしれませんが、リズムを感じて学びやすいのではないかと思います。

それから大日本は、イラストが多くて情報量が多いのですが、多分フォントのメリハリをつけているからだと思うのですが、あまりごちゃごちゃした印象がなくて、見やすく思いました。

それから学校図書は、ささいなことかもしれませんが、筆算の説明の仕方が何かかわいらしくて、丁寧で好ましい印象を受けました。

教育出版もフォントの色使い、使い分けが上手だなと、飽きさせないような工夫をしているなというのを感じました。

啓林館に関しては、問題の後の目当ての示し方が児童の注意を引くような、これも色使いですかね、引きつけるなと思いました。

今までの中では、もう一つの日本文教出版は一番フラットな印象を受けました。もしかしたら内容に集中できる教科書なのかもしれませんが、ほかの本が割と華があるような紙面でしたので、それに比べると静かで落ちついた印象を受けました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、長島委員、お願いします。

長島委員 初めに形式的なことになりますけれども、分冊については各社違いがありました。

例えば東京書籍は、第1学年から第5学年までは上下巻2冊で、第6学年は上下巻に分かれずに1冊。大日本図書は、第1学年のみ上下巻で、第2学年から第6学年まで年間1冊といったように違いがありました。この分冊の有無については、特に今回の判断の材料とはいたしませんでした。

それから判型ですが、学校図書はA B判で共通していますが、そのほか5社、東京書籍と大日本図書と啓林館が1年の最初の上巻といいですか、スタートブックといいですか、それがA 4判で、そのほかはB 5判となっています。B 5判といった、そういった判型の関係、それからフォントとか色使い、あるいは余白によって文字数がちょっと多く見えたり、少し窮屈という印象を受ける場合があったようにも思います。

日本文教出版ですが、各ページでまとめという形で、オレンジ色の地に黒で文章が示されていて、非常に分かりやすくなっているのではないかと思います。

それからプログラミング教育について各社取り上げているわけですが、見てというか読んではというか、ぴんとこなかったというのが正直なところなのですが、これは私の方に問題があるかもしれないと思いました。

それから学校図書ですが、学校図書のみ、文章が読点と句点ではなくて、カンマと句点になっています。横書きではカンマと句点でもということを示すものとしてよいと捉えることもできますし、学校図書の各年の上巻の冒頭に「ノート名人になろう」という欄があるのですが、そこではノートの書き方でカンマ、句点ではなくて、読点、句点になっています。そこから辺どういうふう整理しているのか、聞きたいと思いました。

6社の中で、東京書籍を推したいと思います。その理由ですが、毎日の学習で使うページと、それからもっと学習したいときや役に立つ情報を探すときに使う「新しい算数プラス」という二つの部分でできていて、毎日の学習で使うページの方は今日の問題、学習のめあて、考えるときの手がかり、大切な見方・考え方、学習のまとめ、練習問題と構成されていて、

その中で考えよう、それから説明しようということが繰り返されていて、子どもたちが自ら考え、説明していくというのを進めやすいのではと思ったからです。

東京書籍の「新しい算数」の副題が第2学年の上下巻は「考えるっておもしろい」となっていて、第3学年の上巻から第5学年の下巻までは「考えたことがつながるね!」となっていたかと思います。「考えよう」ということが副題にもよく現われていると思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

私は、算数について、6社見させていただきましたが、特に興味深く見させていただいたのは東京書籍と学校図書と日本文教出版でした。それぞれコメントをさせていただきたいと思います。

東京書籍については、他の教科もそうですが、大変資料が充実してまして、自学自習に役立つなど。そしてまた、おもしろ問題だとか、振り返りコーナーだとか、あるいはまた補充問題だとかも巻末にありまして、習熟度に応じた学び方、そしてまた先生方も指導ができるのではないかと思った次第です。

また、学校図書については、別冊で「中学校へのかけ橋」ということで、中学校進学に向けて小学算数として身につけるべき知識を確認する冊子もついておりますし、單元ごとの振り返り問題が充実しているという印象でした。

また、日本文教出版については、身近な事例を通して算数の課題に取り組むという形で、算数が得意でない子どもたちも興味深く問題に取り組むことができるのではないかと思った次第です。

それでは、一通り御意見を頂いたところで、算数についても採決に移らせていただいでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 議案記載の順に発行者名をただいまから挙げさせていただきますので、挙手をお願いしたいと存じます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 4名ですね。

一応念のために他の発行者についても読み上げさせていただきます。

大日本図書がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

学校図書がよいと思われる方、お願いいたします。

〔挙手〕

教育長 教育出版がよいと思われる方、お願いいたします。

〔挙手〕

教育長 新興出版社啓林館がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 1名。

日本文教出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 4名の方が東京書籍に挙手をされました。教科「算数」、種目「算数」につきまして  
は、東京書籍の教科用図書を採択いたしたいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議ないものと認めます。

東京書籍を採択することに決定いたします。

続いて、教科「理科」、種目「理科」の審議、採決をいたします。

指導室長、理科についての説明をお願いします。

指導室長 では、教科「理科」、種目「理科」について、調査研究のまとめを御報告いたしま  
す。

まず「新編 新しい理科」、東京書籍でございます。内容につきまして、巻末に「広げよ  
う！理科の発想」「こんなところにも！理科の世界、探検部」が掲載されており、日常生活  
へのつながりが意識されております。また、二次元コードが学習内容付近にあり、映像、実  
験の手順などデジタルコンテンツが豊富でございます。

次に「新版 たのしい理科」、大日本図書でございます。内容につきまして、各単元の最  
後に発展の項目「サイエンスワールド」や資料「理科の玉手箱」が掲載されております。ま  
た、6割程度のページに二次元コードが掲載され、掲載位置がページ下部に統一される配慮  
がなされております。

次に「みんなと学ぶ小学校 理科」、学校図書でございます。内容につきまして「もっと  
知りたい」という資料が掲載され、発展的な学習のサポートがされております。また、各ペ  
ージに二次元コードが掲載され、関連した情報をウェブサイトで閲覧できるようになってお  
ります。

次に「未来をひらく 小学理科」、教育出版でございます。内容につきまして、資料が掲  
載され、発展的な学習のサポートやSDGsとの関連が示されております。また、二次元コ

ードが動画、リンク等のテーマごとに示されております。

次に「楽しい理科」、信州教育出版社でございます。こちらは地域限定の教科書にて、区市町村教育委員会には提供がございませんでした。そのため調査から省かせていただいております。

次に「わくわく理科」、新興出版社啓林館でございます。内容につきまして、単元の最後に「ふりかえろうまとめノート」「たしかめよう」「活用しよう」が掲載されております。学習活動につきまして、単元の初めに「思い出そう」という項目があり、既習事項を振り返ることができるよう工夫がされております。

以上でございます。

教育長 ただいま教科「理科」、種目「理科」についての説明がありました。御審議をお願いいたします。

坂田委員。

坂田委員 私は、理科は子どもたちに興味を持ってもらうことが大事な科目で、それぞれの科目の中でもその辺に関する工夫というのが大事な科目だと理解をしています。理科は理科と1科目で括っていますけれども、実際は生物、生命、それから化学、物理、天文、気象といった多様な学術の集合体みたいなところがあって、子どもたちがある単元で分かったと思っても、次の単元に行くとは別のテーマになるので、もう一度やっぱり最初から分かるように努力しないといけないということで、子どもたちにとっては難度が高い科目なのではないかと私は思っています。

そういう観点で各社見させていただきました。その中から3社ほどに絞り込み、詳しく検討してみたものです。

東京書籍は、重要な問いを設定されて、それに関して問題をつかもう、予想しよう、実験それから考えよう、最後にまとめということで、うまくストーリーを構成されているように思います。論点に関しても、例えば5年生ではふりこのきまり、6年生では水溶液の性質、また月の形と太陽とか、過不足のない論点になっていると思います。

分かりやすさという本題の部分ですけれども、その辺について幾つかピックアップして比較検討をしてみました。月や光の見え方ということについて、これは4年生ですけれども、結構つまずきやすいところだと思うのですが、そういったものに対応して、かなり丁寧な解説がなされています。

同じく5年生の種子の発芽というのがあるのですが、実験1では発芽の条件、それから実験2では子葉、でんぷんを含んでいる子葉の働きということで、二つに分けてこれもうまく解説されていると思います。

それから、やはりとっつきにくいのが、人の体のつくり、6年生ですけれども、これはやっぱりそういった子どもたちの感覚に応じる形で、かなり丁寧な解説になっていると思いました。

アンケート調査の方を見ても、アンケート調査の中でも子どもや先生がなじみやすく、子どもの思考や身近な現象の扱いが丁寧になされているという記述があったと記憶しています。

教育出版ですけれども、東京書籍と比べて発展的な内容にやや多くの紙面を割かれています。6年生の植物では実験4までありまして、さらにその後に「わたしの研究」がついているということで、分かりやすさに加えて深さを感じる教科書のつくりになっていると思います。

それから大日本図書ですけれども、問題、予想しよう、計画を立てる、それから考える又は実験、分かったこと、自由研究というような中身になっていまして、これもうまく流れを設定されていると思いました。

紙面の印象としては、大判でなじみやすいものとなっていますし、それから大事な部分を大きな図で表されています。子どもたちがちょっと引っかかりそうな部分について、ピックアップしてみたのですが、そこについて見ても、支点、力点からつり合う条件、それから面積で表したイメージ図があって、それから最後に輪軸が出てくると。この辺は子どもたちにとっては、ほかの教科書に比べても一番分かりやすくなっているのではないかなと思いました。

その他、ちょっと時間の関係で省略いたしますが、全体として子どもたちが引っかかりそうな部分について、各社の記述を比較検討していったものです。

総合的にみて私としては、東京書籍が大日本図書、いずれかがよいかなと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、小林委員。

小林委員 理科においてですが、実験というのは非常に重要だと思っております。まず仮説を立てて、実際に実験をして、結果を導き、考察を深めることが重要な科目で、とりわけ理科においては実験が重要と考えております。そういう観点から教科書を見せていただきました。

まず大日本ですけれども、実験が充実しておりまして、特に実験の手順が写真ではっきりと説明されていて分かりやすいというのがあると思います。教師の側にとっても指導しやすいのではないのでしょうか。

2点目ですが、QRコンテンツが非常に充実していると思いました。動画がかなりたくさ



ん入っております。

そして東京書籍も優れた教科書であると思いました。まず実験が非常に充実しております、手順が分かりやすく説明されている。また、言葉での説明が丁寧で、これは実験に当たって注意しなければいけない点も明確に記載されていると思います。

2点目、QRコンテンツが非常に充実していると思いました。

そして3点目ですが、アンケート結果を見せていただいたのですが、東京書籍がいいという意見もかなり多かったと思っております。

私としては、大日本か東京書籍がいいのではないかと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員。

繁田委員 まず、どこの会社もQRコードというか、二次元コードはとても充実しているということは申し上げておかないといけないと思います。理科は自然科学の手法で疑問なり仮説なりがあって、それを実験して調べて、結果が出て、それをどう理解するか、どう解釈するか、最後にまとめるというか、結論を出すという、その流れをどういうふうに見せるのかというところが、多分教科書の腕の見せどころだと思ひまして、それもどの教科書も大変工夫していて、特に先に申し上げると、独特のというと誤解を招くかもしれませんが、独自に本当に吟味して工夫して流れを作っているのは啓林館のような印象を受けました。

それから東京書籍は、独特の手づくり感といいますか、それが何かこの科目に合っているような。それは一つ一つの題材の扱いがとても丁寧だなという、大切に生徒に伝えようとしているというのが伝わってきました。人によっては実験のやり方が分かりやすく説明されているというアンケートにもつながるのかなと思いました。

それから大日本図書は、写真が効果的に使われていて、この教科書が一番大判であることを生かして、長所にしているという印象を受けました。

それから学校図書は、写真がよかったですね。どの写真も眺めていると顔がほころぶというか、いい写真が、直接理科の科目ということではないのかもしれないですけども、写真が児童を引きつけるのではないかなと思いました。あとはただ、5冊の中では一番紙面がコート紙だから光るので、児童が勉強したりお家で見たりするときに、影響はないのかなというのが、分かりませんでした。ただ、一番光ったと思います。

それから教育出版は、文字の見やすさが何ととっても印象的でした。しっかり目に入ってくるという、情報量も多いのですけれども、説明が目に入ってくるということです。

啓林館は、先ほど説明した長所を感じたところです。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは、長島委員、お願いします。

長島委員 各社、理科の学び方ということについて、表現は多少違っているわけですが、問題・課題を見つけるから始まって、予想、計画する、観察・実験する、結果を示す、考察する、結論を出すという手順を示しています。そのプロセスの中で、考えを伝え合おうとか、話し合おうということも強調されていて、教育出版では自分たちの考えを伝え合い、学び合おう、国語で学んだ力を生かそうということで、各学年大切にしたい言葉というのが示されていました。例えば3年で大切にしたい言葉として「比べると」「ちがいは」とか、4年ですと「なぜなら」「その理由は」とかということ、そういうふうになっているのかと伺いますか、よく考えられているのだなと思いました。

それから判型ですが、東京書籍と大日本図書がA4判で、教育出版はA4の変型判で、学校図書と啓林館がA/B判になっています。実験や観察に関して、写真とか図が多用されているということから、判型が大きいほうが見やすくなっているのではと感じました。

そういった写真や図、イラストが分かりやすいということから、東京書籍、それから大日本図書、教育出版の3社かなと思いました。

アンケートには東京書籍が見やすいという意見、それから大日本図書が見やすいという意見、教育出版が分かりやすいという意見がありました。写真やイラストの見やすさ、それからまた理科の学び方ということで、見つけよう、調べよう、伝えようと整理されていて分かりやすいということから、大日本図書かなと思っています。

あと、余計なことになるかと思いますが、人体の臓器の図が第6学年に示されていますけれども、5社とも膵臓がないのですね。中学校のときも同じようなことを思った記憶があるのですが、あれっと思って、「学習指導要領」を見たら内容の取り扱いのところで膵臓が書かれていなくて、主な臓器として肺、胃、小腸、大腸、肝臓、腎臓、心臓を扱うと書かれているのです。だからないのかなと思うのですが、ちょっと釈然としない感じが残ったということだけ伝えておきます。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

私の感想ですけれども、理科については先生たちも理科専科という先生ばかりではないというところで、教えづらいと感じている先生もいる中で、先生たちが教えやすい教科書はどれかという視点で見させていただきました。そうした場合、実験だとか観察に際して、手順が明解に示されている、あるいはまた先生の説明が不十分であっても教科書を見れば子ども

たちが一定その単元のねらいを把握できる教科書がいいのではないかと思います。

そういった意味では、先ほど来何人かの先生が御指摘されていますけれども、東京書籍、大日本図書、教育出版の3社が分かりやすいのではないかと思います。手順ですとか流れ、そしてまた学び合いの設問も用意されておりまして、グループで実験、観察をする際にも子どもたちが教科書の設問をきっかけに話し合いを深めることができるのではないかと感じた次第です。

理科についても、皆様から御発言を頂きました。特にほかにないようであれば採決に移らせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、これも議案記載の順に発行者名を今から挙げさせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

大日本図書がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 4名ですね。

念のために学校図書がよいと思われる方、お願いします。

〔挙手〕

教育長 教育出版がよいと思われる方、お願いいたします。

〔挙手〕

教育長 新興出版社啓林館がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 4名の方が大日本図書に挙手をされました。教科「理科」、種目「理科」につきましては、大日本図書の教科用図書を採択することに御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、大日本図書の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて、教科「生活」、種目「生活」の審議、採決をいたします。

指導室長から「生活」について、説明をお願いします。

指導室長 では教科「生活」、種目「生活」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「新編 あたらしいせいかつ」、東京書籍でございます。内容につきまして、学習の途中に発展的な資料が載っており、児童がすぐに活用できるように工夫されておりまして、表現につきまして、多様性を意識して世界の子どもたちがイラスト等で紹介されておりまして、

次に「新版 たのしいせいかつ」、大日本図書でございます。内容につきまして、「生き物」に関するページが豊富でございます。表現につきまして、イラストや写真の中に、外国にルーツをもつ児童を取り上げ、人種、国籍等の区別なく学習に取り組む場面を意図的に例示しております。

次に「みんなとまなぶ しょうがっこうせいかつ」、学校図書でございます。内容につきまして、図鑑のような発展的資料が掲載されております。表現につきまして、随所にある二次元コードにより、外国人キャラクターのイラストが様々な言語で内容が表示されるよう工夫されております。

次に「せいかつ」、教育出版でございます。内容につきまして、キャラクター「いぐら」を活用し、児童の気付きや学びを支える構成となっております。表現につきまして、外国人、障がいのある児童など様々な家庭環境や多様性、自分らしさを大切にした表現がなされております。

次に「せいかつ」、信州教育出版社でございます。同社は先ほど理科にて御説明したとおり、地域限定の教科書にて、区市町村教育委員会には提供がございませんでした。そのため調査から省かせていただいております。

次に「せいかつ たんけんたい」、光村図書出版でございます。内容につきましては、著名な絵本作家の挿絵が使用されております。表現につきまして、発表の場面において紙媒体だけでなく、タブレットPCや電子黒板を使った方法も示されており、別冊資料と併せて多様な活動が提案されております。また、地域性につきまして、ゆいの森あらかわの施設やそこで働く荒川区職員の姿が紹介されております。

次に「せいかつ」、新興出版社啓林館でございます。内容につきまして、絵本のような挿絵から、児童の関心や気付きを引き出せる工夫がなされております。表現につきまして、写真や挿絵を効果的に使って、生活と環境を考える資料が提示されております。

以上でございます。

教育長 ただいま教科「生活」、種目「生活」についての説明がございました。御審議をお願いいたします。

坂田委員。

坂田委員 生活につきましては、全社共通して季節感が非常に大切にされた構成になっていると思います。ともすれば今、現代、季節感が薄れがちな中で、生活の学びとして非常に大事にされていることがよく分かります。

また、性別に関するアンコンシャスバイアス、無意識の思い込みということですが、への配慮も各社共通してよくなされていると思いました。そういった前提で考えますと、非常に

大きな差はないのですけれども、比較検討した結果、少し特徴的と考えられる点を幾つか述べたいと思います。

まず教育出版ですけれども、気付く、考える、伝える、伝えるの中に自信を持つという要素が含まれていますが、自分でできる、挑戦するというようなストーリーによって主要な主題を捉えられています。全体として教育出版は教員が使いやすい題材が多いなと思いました。また、アンケートでは、子どもの気付き、願いを大切にされているのではないかとアンケートがあって、私もそれは同じような印象を持ちました。

東京書籍ですけれども、非常に題材に対して丁寧な作りになっていて、解説が生活の中でも最も丁寧な作りの解説がある、そういう教科書ではないかと思います。これは、よしあしがあって、授業を進めるときに教科書に沿って進めるという場合は使いやすいのですが、教科書どおりではなくて題材を生かして先生方が独自に授業を進められる場合は、ちょっと使いにくいというところはあるのではないかと思いました。

大日本図書は、東京書籍とかなりよく似たタイプの教科書だと思います。

学校図書は、「ものしりノート」とか「ものしりずかん」というのがあって、相対的に見てやや発展的な内容が多いように思います。

光村図書ですけれども、上巻の導入部で学校や通学路の探検というテーマがあって、これは各社そういったところがあるのですが、光村図書は30ページもこれに投入をされていて、子どもたちの導入部分をかなり丁寧に配慮された作りになっていると思います。また、テーマごとの進め方も丁寧な進め方になっていると思います。

啓林館は、コンパクトにまとめられているなという印象でした。

総合的に見て、私は教育出版か光村図書、いずれかがよいのではないかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

では、小林委員、お願いします。

小林委員 生活という教科ですが、日常世界、あるいは外の世界と学校をどう結びつけるのかという教科だと思っております。そういった点から各社非常に工夫がされていると思いながら読ませていただきました。その中から幾つかコメントをさせていただきたいと思っております。

まず1社目ですが、光村です。先ほどの御紹介にもあったのですが、絵本作家であるヨシタケシンスケ氏のイラストが随所に描かれておりまして、非常に重要な役割を果たしております。ヨシタケシンスケさんですが、「りんごかもしれない」などの絵本が世界各国にも翻訳されているイラストレーターで絵本作家です。作品は、自分は自分であって、ほかの人と

違っていいのだという1人1人を勇気付けてくれる作品が多いように思っております。そうした作家の作品のコンセプトと、小学校1、2年生にとって新しい小学校という環境の中でも、失敗してもいいのだ、失敗してもいいから新しいことに挑戦しようという1年生の学びにとって、非常に大切な部分が一致していると思っております。ある意味で絵本と教科書の融合への挑戦であり、教科書の新しい可能性、あるいは絵本の新しい可能性を見せてくれるものなのではないかと思いつながりながら読ませていただきました。

荒川区は「荒川区豊かな心を育む読書のまちづくり条例」というのを制定しておりまして、読書によるまちづくりを推進しております。その中で、絵本などの家読も推進しておりまして、柳田邦男絵本大賞も制定しております。ゆいの森には絵本館もあります。そうした絵本を通じてのまちづくりを推進している荒川区としては、ふさわしい教科書であるのではないかと思いつながりながら読ませていただきました。

また、この教科書を見せていただきますと、保護者へのメッセージも随所に書かれておりますので、親子でヨシタケさんの絵本を楽しむように、親子で楽しめる教科書であると思われました。アンケートの中に、楽しみ過ぎてしまって教科書としてはこれでいいのかなという気もするという意見があったのですが、楽しい教科書があってもいいのではないかと思っております。

ほか、東京書籍です。各社季節感のある教科書づくりになっているのですが、特に写真がアピールする内容になっていると思っております。

そして2点目ですが、子どもたちが意欲的に学ぶことができる内容になっているという印象を持ちました。

3点目としては、QRコンテンツが非常に充実しているというのもありました。

そして教育出版ですが、キャラクターとして「いぐら」を活用しておりまして、低学年には非常にいいのではないかと思います。優しい感じのする教科書づくりになっていると思いました。

総合的に考えまして、光村がいいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員。

繁田委員 各社ともそれぞれ特色があって、甲乙つけがたい印象です。

それぞれ申し上げますと、東京書籍は、やっぱり分かりやすさというのは手慣れているなと。アンケートでこれは使いやすいというコメントをしておられた先生がいたのが目にとまりました。

大日本図書は、載っている活動を読んだときに、児童はやってみたいと感じるのではないかなと思いました。

それから学校図書は、大きくて写真も見やすいのですが、ページの余白が僕はすごく生きている感じがして、テーマに集中させられるのではないかなという印象です。

それから教育出版は、イラストと文字のバランスがよくて、見通しもつけやすい、よくできている本だと思いました。

それから光村図書に関しては、小林委員がおっしゃったようにイラストがとにかくものを持っている教科書だなと。以前から教科書はもちろんお行儀がよくないといけないのですが、もっとアートとかインダストリアルデザインの専門家が力を振るってもいいのかなと思っていたので、その意味では高名なイラストレーターの方が関与したというのはとても魅力的に感じました。

啓林館は、落ちついた紙面でシンプルですけれども、やっぱり内容に集中させる本かなと感じました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 判型ですけれども、A4判が4社、A4変型判が1社、A B判が1社ということで、違いがあるわけですが、生活科の教科書、子どもたちが持って歩くということも想定されるわけですが、この判型と重さ、それほど影響はないと思ひまして、特に選定に際して考慮はいたしませんでした。それが一つ目です。

生活科の目標の一つに、学校、家庭、地域の生活に関わることを通して、身近な人々、社会、自然との関わりについて考えていくことができるということがあったかと思いますが、各社、写真とかイラストを多用して子どもたちのそのような活動を促そうとしている、よく工夫されていると思いました。

今回、各社の各ページを見させていただいて、吹き出しの形とか色使いもそれぞれ工夫しているのだなということを改めて認識させていただきました。写真やイラストの見やすさ、それから使いやすさということから、大日本図書、教育出版、光村図書の3社に絞って、その中から最終的に教育出版かなと思っております。教育出版ですが、巻末には「学びのポケット」ということで、ほかの学習ともつなげようということ、いろいろ示されているわけですが、その中に「本から学ぼう」とか、「コンピュータを使うとき」というのも示されていて、よいのではないかなと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

私自身は、6社の教科書を見させていただいた上で、東京書籍、教育出版、光村図書出版がいいのではないかなと思ったところです。

光村については、ゆいの森あらかわの写真を使っているというところはあるのですが、先ほど小林委員から御発言がありましたが、ヨシタケシンスケさんの絵を中心に構成していますけど、ちょっとよしあしがあるのかなという気はいたしました。

教育出版については、図や写真などに車いすのお子さんとか外国のお子さんなど、多様性を尊重するという姿勢がうかがえて、絵や写真が中心の構成になっていて、低学年の子どもたちにとっては分かりやすい教科書になっていると思った次第です。

また、東京書籍については、小学1年生、新入生用に学校生活のスタートということで、大きく項目を設けていただいています、新入生になって自分の学校を知るという意味でも、参考になるのではないかなと思った次第です。

それでは、そのほか特に御意見等がなければ、採決に移らせていただきたいと思います、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 議案記載の順に発行者名を挙げさせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

次に、大日本図書がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

学校図書がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 2名。

新興出版社啓林館がよいと思われる方。

〔挙手〕



教育長 いらっしゃいませんね。

3名の方が教育出版に挙手をされました。

教科「生活」、種目「生活」につきましては、教育出版の教科用図書を採択することに御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議ないものと認めます。

教育出版の教科用図書を採択することに決定いたします。

ここで休憩とさせていただきます。当初10分間休憩を予定していたのですが、時間が押していますので、トイレ休憩だけにさせていただいて、5分とさせていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。

〔休憩〕

教育長 再開いたします。教科「音楽」、種目「音楽」の審議、採決をいたします。

指導室長、音楽についての説明をお願いします。

指導室長 では教科「音楽」、種目「音楽」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

まず「小学音楽」、教育出版でございます。学習活動につきまして、「音楽の素」や「学びのプロセス」が系統的に表示されており、音楽的な見方・考え方に導く工夫がなされております。

また、二次元コードで動画を視聴できるほか、コンピュータ上でワークシートが取り出せるようになっております。

次に「小学生の音楽」、教育芸術社でございます。学習活動につきまして、「音楽の素」や「学びの手順」が吹き出しの細かい言葉で具体的に示され、見通しをもった学習を進められる工夫がされております。

また、全曲に二次元コードがあり、ウェブアプリや音源を活用できるようになっております。

以上でございます。

教育長 教科「音楽」、種目「音楽」についての説明でございました。御審議をお願いいたします。

坂田委員、どうぞ。

坂田委員 ちょっと最初に、質問してもよろしいでしょうか。

教育長 どうぞ。

坂田委員 ここから音楽や図画工作といった科目は、時間数がかかなり限られていると思うのですが、そういったことを考慮する必要があると思うのですけれども、時間数について確認が

できればと思うのですが、いかがでしょうか。

教育長 事務局、答えられますか。

指導室長 御質問いただきました音楽の指導時数についてお答えいたします。

小学校音楽につきましては、小学校1年生が68時間、小学校2年生70時間、小学校3年生、4年生がいずれも60時間、小学校5年生、小学校6年生いずれも50時間。以上となっております。

教育長 坂田委員、よろしいでしょうか。

坂田委員 分かりました。

音楽については、二つの教科書ですね、いずれも子どもたちが大変親しみやすいつくりになっていると思います。違いは分量と、それから子どもたち及び同時に先生たち向けということだと思うのですが、そのガイドがどれくらい細かくついているかというところになります。

教育出版の方は、題材の数が多いので、先生方が選びながら進めるならばこちらがよいと思います。また、海外の楽曲を含めて題材に多様性もあると思います。

アンケートを見ますと、楽譜や写真が見やすいという御意見がありました。

教育芸術社の方は、学びの手順が吹き出しの形でかなりたくさんついていまして、見通しを持った学びをしやすいということと、それから先生もこれに沿って教えるのであれば、ガイドが豊富ということではないかなと思います。歌唱の教材集や鑑賞の楽曲数については、教育出版よりもやや少なめになっています。諸外国の音楽で差が大きくなっているかなと思います。

アンケートでは、教育芸術社については、教材曲は音楽的にも子どもたちが歌う気持ちになる楽曲が多いのではないかという御意見がありました。

どちらの方式がよいかということではちょっと迷うところなのですが、私は学びの手順について、吹き出しの形で多くのガイドがある教育芸術社の方がよいのではないかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

小林委員。

小林委員 音楽の2社ですが、ともに非常に優れた教科書であると思いながら読ませていただきました。

まず教育出版ですが、1点目としましては、取り上げている作品数が多くて、非常に豊富な内容です。様々な歌唱、あるいは楽曲を学ぶことができるというメリットがあると思います。

2点目ですが、掲載されている写真が非常に美しく、視覚的なイメージから歌や楽曲のイメージを膨らませることができるといった、そういった内容になっていると思います。写真を見て、まずその歌詞に描かれた世界を実感して、その上で歌を歌うといった、そのような工夫も見られると思います。ただ、6年生「おぼろ月夜」の歌のところにある写真が少しだけ気になったのですが、私のイメージではおぼろ月の夜というか、月がかすんでぼんやりと見えている、そういった情景を歌っている歌詞かなと思っていたのですが、掲載されている写真が夕方の菜の花畑の情景で、少し明るいような印象をちょっと受けたと、そんなことがございました。

それと教育芸術社ですが、歌唱や鑑賞の楽曲数は教育出版より少ないのですが、これまで世代を超えて歌い継がれてきた曲が精選されておりまして、1曲1曲を丁寧に扱うことができる適切な量なのではないかと思われまます。

また、2点目としては、見つける、考える、歌う、あるいはポイントが記されておりまして、その点は指導のしやすさがあるのではないかと思いました。

2社とも甲乙つけがたいところがあるのですが、指導のしやすさから教育芸術社がいいかと思いました。

以上です。

教育長 繁田委員。

繁田委員 どちらも興味深く、楽しく拝見しました。

教育出版の方は、比較すると何が違うのかちょっと分らなかったのですが、楽譜が見やすく感じました。それから曲想を伝えるということに工夫がされているように思いました。どちらも演奏も鑑賞もしっかり説明はされているのですけれども、どっちかというところと教育出版の方は、いい鑑賞に結びつく教科書かなという印象でした。

教育芸術社の方は、教科書自体の情報量も、絵も文字も多いのですけれども、こちらの方は演奏することを大切にしているのかなという印象を受けました。オーソドックスな曲を丁寧に大切に児童に理解させようというところが、私は好印象を受けました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 両社の教科書を見ていて、坂田委員、小林委員からもありましたが、取り上げられている曲数の違いということで、教育出版の方が多くて、教育芸術社が少ないのではと思いました。

都教委の教科書調査研究資料ですと、扱われている歌唱の教材数が、例えば第1学年を見

ると教育出版が40で、教育芸術社が19ですね。それから第1学年から第6学年の合計で、教育出版が182で、教育芸術社が142です。鑑賞の楽曲数も第1学年から第6学年の合計で、教育出版が81、教育芸術社が66と教育出版の方が多くなっていることを確認いたしました。

それから両社の教科書を見ていて、興味深い点多々ありまして、例えば教育出版の方では第6学年ですが、演奏による表現の違いとして小澤征爾とカール・ベームを取り上げていたり、それから循環コードとアドリブということで、「循環コードをもとにアドリブで遊ぼう」というものがあったり、それから教育芸術社の方は、第4学年で「ことばでリズムアンサンブル」、繰り返しや変化を使ってリズムアンサンブルを作りましょうというのがあたり、第6学年で音楽のもっている力や役割といったことが取り上げられておりました。

どちらを選定すべきか非常に迷うところはあるわけですが、苦肉の策といえますか、共通教材の扱い方ということで判断しました。教育出版では、共通教材は「にっぽんのうた、みんなのうた」となっていますが、例えば第3学年で「ふじ山」あたまを雲の上に出しの「ふじ山」ですけれども、何かちょっと唐突に出てくるような印象を受けます。それに比べて教育芸術社における共通教材、「こころのうた」となっていますが、教育出版に比べて唐突な感じはしないのかなと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員が御指摘の曲数等については、私も資料から大分違うなという印象を受けました。また、「君が代」の扱いについてもちょっと違っているなという感じはございました。ただ、どちらの教科書もよくできているし、二次元コードも含めて大変充実しているなという印象を受けた次第です。

そのほか特に御質問、御意見がなければ採決に移らせていただいてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、2社順に発行者名を掲げさせていただきます。初めに教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では教育芸術社がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 5名の方が教育芸術社に手を挙げられました。

教科「音楽」、種目「音楽」につきましては、教育芸術社の教科用図書を選択することに

御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、そのように決定いたします。

続いて教科「図画工作」、種目「図画工作」の審議、採決をいたします。

指導室長、図画工作について説明をお願いします。

指導室長 では、教科「図画工作」、種目「図画工作」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

「図画工作」、開隆堂出版でございます。学習活動につきまして、「あわせて学ぼう」に各教科との関連や「主体的・対話的で深い学び」に関わる記述がされております。また、二次元コードで「作品カード」や「かん賞シート」等を活用したり、動画や活用例を確認したりできるようになっております。

次に「図画工作」、日本文教出版でございます。学習活動につきまして、写真や吹き出しを適切に配置し、児童が制作過程を分かりやすくしております。また、二次元コードで用具の使い方の動画、360度から鑑賞できる作品、アプリ等の視聴及び閲覧することができるよう工夫がなされております。

以上でございます。

教育長 教科「図画工作」、種目「図画工作」につきまして、御審議をお願いいたします。

坂田委員。

坂田委員 いずれの教科書もわくわくするような紙面の構成になっていると思います。また、開隆堂の方では、「小さな美術館」や「美術館をたのしもう」、それから日本文教出版の方では、「教科書図書館」「美術館に行こう」ということで、子どもたちが美術館に行くことの背中を押すような、そういったことをかなり意識された中身になっていると思います。

私は美術館とか博物館とか、子どもの頃に行くのがやはり重要ではないかと思っていて、そういうことを両教科書ともすごく意識されていると思います。

その上で、差は限られているわけですが、内容についてももう少し見てみますと、開隆堂の方は作品の数はやや抑えぎみにしていて、その中で絵に表す、立体に表す、工作に表すの中で、工作の比率を高めにとっているというのが特徴かと思われれます。開隆堂はとても色鮮やかな紙面、大変印象的で親しみやすいものだと思います。

また、5、6年生になると、さすがというか、非常に高度な作品が多く取り上げられていて、例えば5、6年生の上巻では「線から生まれたわたしの世界」、それから下巻の方では「金属と木でチャレンジ」という、かなり高度な作品を取り上げているなと思います。アンケートを見ますと、発展的な見本作品の掲載が多いと書かれていまして、なるほどそのとお

りだと思えます。

日本文教出版の方は、例えば「教科書図書館」では、金剛力士像とか、写楽の浮世絵、それから世界の代表的な絵画ということで、最初に申し上げたようにわくわくするような題材を多く取り上げられていると思います。相対的には、題材数は多めになっているということです。

いずれもちょっと甲乙つけがたいので、皆さんの意見も聞いて最終的に決めたいと思っておりますが、現時点では開隆堂の方がややいいかなと思っております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では、小林委員、お願いします。

小林委員 2社ですけれども、まず開隆堂からいきますと、1点目としては、表現技法についての説明が非常に丁寧になされておりまして、水墨画ではこのように筆を動かすといった、そういった説明が丁寧に行われていると思います。

2点目としましては、QRコンテンツが非常に充実していると思いました。特に6年生のところに「未来につながる図画工作」というのがありまして、これは非常によかったと思っております。

そして3点目ですが、実際に作品を作っているお子さんの写真が多くて、大きい写真が掲載されておりまして、同じ世代の子どもたちの作品も多く、自分もこうした美しい作品が描けるのではないかと、作れるのではないかとという気持ちにさせてくれる教科書ではないかと思っております。

日本文教出版ですが、作品が多くて、古典的な作品も非常に多くて、また、その写真もインパクトがある写真だと思います。作品を見て、外の世界と自分自身が響き合う、そういったところに美しさが生まれるといった、その辺りを狙っているのかなと思っております。

2社あるのですが、先生方の御意見をお伺いしながら、判断したいと思っております。

以上です。

教育長 繁田委員。

繁田委員 開隆堂の方は、課題の順序がいろいろ工夫されているなと感じました。それからタブレットの使用につながる教科書かなと。何よりもということあれですけれども、芸術を楽しむというか、見せるということ、その楽しさというか、見がいがある写真をうまく見せてくれているという印象でした。

日本文教出版の方では、主に課題があって、友達と一緒に作ったりする作業ですかね、そちらの方を重視しているような印象を受けました。ですので道具の取り扱いであるとか、そ

ういものもすぐ分かりやすく、あるいは材料とか素材ですね、そういうものの説明もよかつたように思います。

芸術に触れるという、いわゆる一級、いいものを見せるという意味では、私は開隆堂を推します。

教育長 長島委員、お願いします。

長島委員 取り上げられている活動とか内容とか、開隆堂も、それから日本文教出版もバラエティに富んでいるなと思いました。甲乙つけがたいという感じです。

各単元の最初に示されている学習のめあての表示とありますが、それについて見てみました。開隆堂の方は形や色、それから方法や材料を知って工夫する力ということで、「くふうさん」というキャラクターで示されています。それから心を開いて楽しく活動し、友達と関わり協力し合う力については、「こころさん」というキャラクターで示されていて、特に大切なめあてには下線が引かれていて、赤字で示されています。

日本文教出版の方は、まず形や色について理解することとか、材料や用具を工夫して使うことについては手のひらのマーク、作りたいものや作り方を考えることや作品や活動のよさや美しさを感じることにについては電球のマーク、楽しんで思いを実現しようとするにつについてはニッコリ顔のマークで示されていて、開隆堂と比べると少し控えめな印象を受けました。

それから、写真や吹き出しの使い方ですが、開隆堂の方がやや見やすい印象を受けました。日本文教出版の方が全体として少しきついというか、目に優しくない印象を受けたのですが、バックの色の使い方かなと思ひまして、幾つかの色が全面に使われていると。それに対して開隆堂はバックが白の部分がちょっと多いのかなと思ひました。

取り組みやすさ、見やすさといったことから、開隆堂の方がかなと思ひているところでは。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

私自身も先生方の御意見と同じような形で、開隆堂、図画工作においてもタブレットの活用をかなり意識した教科書の紙面構成になっているなという印象、そしてまた「小さな美術館」という項目で、作品鑑賞を通して美術というものの見方とか考え方を子どもたちに醸成しようとしているという印象を受けました。

そのほか特に御意見等がなければ、採決に移らせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは2社、議案記載の順に発行者名を掲げさせていただきたいと思ひます。

初めに、開隆堂出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 5名ですね。

日本文教出版がよいと思われる方は、いらっしゃいませんか。

〔挙手〕

教育長 5名の方が開隆堂出版ですので、教科「図画工作」、種目「図画工作」につきまして、開隆堂出版の教科用図書を採択することに御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、そのように決定いたします。

続いて教科「家庭」、種目「家庭」の審議、採決をいたします。

指導室長、家庭についての説明をお願いいたします。

指導室長 それでは教科「家庭」、種目「家庭」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

まず「新編 新しい家庭」、東京書籍でございます。内容につきまして、衣食住が全体にバランスよく構成されております。学習活動につきまして、1時間ごとに目当てが示されており、単元のどの場面で問題解決的な学習活動や言語活動を進めるのかが明確になっております。

次に「わたしたちの家庭科」、開隆堂出版でございます。内容につきまして、発展と補充問題が充実しております。学習活動につきまして、単元全体を通して問題解決的な学習活動や言語活動を進めることができるよう工夫がなされております。

以上でございます。

教育長 教科「家庭」、種目「家庭」についての御審議をお願いいたします。

坂田委員。

坂田委員 家庭科につきましては、二つの教科書とも重要な点で非常に共通したものとなっていると思います。一つは持続可能な社会への意識付け、それからアンコンシャスバイアスへの配慮といった点です。また、東京都教育委員会の調査では、定量的な数字にもほとんど差異がないということになっています。それから紙面の特徴も似ていて、他の教科に比べて落ちついた色調の紙面になっているというのも共通点だと思います。

そういう意味で、大きな差がなく、甲乙つけがたいと思いますけれども、私個人としては東京書籍の方は最後の単元のタイトルが「あなたは家庭や地域の宝物」というメッセージになっていて、荒川区の子どもたちに対する普段言っているようなメッセージですね、とすごく共通点があるということで、東京書籍の方をやや推したいと思います。



以上です。

教育長 ありがとうございます。

小林委員。

小林委員 まず東京書籍ですけれども、項目ごとに目当てが示されておりまして、何を学ぶか明確であるという特徴があると思います。

2点目ですが、文字による説明が非常に充実していると思います。細かい説明もあります。重要な部分が説明されているのがいい点だと思います。

3点目、QRコンテンツが非常に充実しております。

また、開隆堂ですが、1点目としては、図やイラスト、写真が多く使われておりまして、写真による説明が充実していて見やすいと思いました。例えば6年生のみそ汁の作り方ですが、この作業工程が左から右へ写真入りで説明されておりまして、横流れの実習手順になっていて、分かりやすさがあります。

また、開隆堂ですが、自分で作った作品で生活をより豊かにしようとする仕組みがあるように思います。例えば「ミシンで楽しくソーイング」のところですが、作品を生活で使ってみようということで、食事のときにランチョンマットを敷いた例が写真で紹介されておりまして、写真で紹介することで具体的にやってみたい、作ってみたいという気持ちにさせるという効果があるのではないかと考えております。

3点目なのですが、QRコンテンツがやはり非常に充実しております。

ほぼ甲乙つけがたいと考えております。ただ、実技の指導については、見てすぐ分かるということが重要で、強いていえば開隆堂は写真を活用して分かりやすくなっていることから、開隆堂のように思われました。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

繁田委員。

繁田委員 どちらの教科書も写真や図は分かりやすかったですし、巻末の資料といいますが、一覧表みたいなものも大変参考になりました。機械の操作などに関しても丁寧に説明されていていらっしゃるのですが、印象に残ったのは開隆堂の方で、最後に災害関係のことが丁寧に、少し詳しく載っているのと、それを見てから改めて振り返ってみると、生活の中で起こってくる危険というか、けがとか事故とか、そういうものを意識した記事のように思いました。そこが私は評価をしたいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 4年前にも同じようなことを言ったのかもしれませんが、東京書籍の方は表紙の裏に「家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科です」と最初に書いてあって、そのメッセージが非常に印象的だなと思います。

2年間の学習の流れについて、東京書籍ではこれまで家庭や学校で学んできたことの振り返り、それから家庭科で学ぶこと、中学生に向けて、SDGsに向けてとなっていますが、開隆堂の方もほぼ同じような形になっていて、非常によく似ているなと思いました。

それから調理とか手縫いですね、あるいはミシンの使い方など両社とも写真とかイラストを使って極めて分かりやすく示されていて、甲乙つけがたいというところはあるわけですが、小林委員からも意見がありました。開隆堂の方が若干見やすくなっている、分かりやすく構成されているのではないかと捉えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。私の感想ですけれども、2社とも大変よくできた教科書で、ひとり暮らしをする人でも、この小学校の家庭科の教科書さえ持っていれば大体自分のことができるのではないかなというぐらい、2社とも大変優れた教科書になっているという印象でした。

どちらかというとう東京書籍の方は、説明を重点に紙面構成をして、開隆堂の方は見やすいように写真や図を大きくしているという印象でありました。そのぐらいの違いかなと思った次第です。

そのほか先生方、御意見等ございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 なければ採決に移らせていただきます。2社、議案記載順に発行者名を申し上げます。

初めに東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

では、次に開隆堂出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 4名の方が開隆堂出版に挙手をされました。

開隆堂出版の教科用図書を教科「家庭」、種目「家庭」につきまして、採択いたしたいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、そのように決定いたします。

続いて教科「体育」、種目「保健」の審議、採決をいたします。

指導室長、保健についての説明をお願いします。

指導室長 それでは教科「体育」種目「保健」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

まず「新編 新しい保健」、東京書籍でございます。内容につきまして、1時間当たり約2ページ程度の内容量になっております。学習活動につきまして、「気づく・見つける」、「調べる・解決する」、「深める・伝える」、「まとめる・生かす」という学習の流れで構成されております。

次に「新版 たのしい保健」、大日本図書でございます。内容につきまして、手型を描き込んで自分の成長を確認する活動ができるようになっております。学習活動につきまして、「つかむ」を主体的に、「話し合う」を対話的、「活かす」を深い学びの流れで学習していけるよう構成されております。

次に「新 小学校保健」、大修館書店でございます。内容につきまして、基礎から発展への系統的な学習過程になっております。学習活動につきまして、学習の見通しをもち、どのような活動を促せばよいのかを明確にさせる工夫がなされております。

次に「新わたしたちの保健」、文教社でございます。内容につきまして、アスリートや経験者の実体験の話が掲載されております。学習活動について、1時間の中で学習の流れをつかむことができるような工夫がなされております。

次に「小学保健」、光文書院でございます。内容につきまして、作家やアスリートの特集ページがございます。学習活動について、自分の考えや気づきを書き込むことができるよう工夫がなされております。

次に「みんなの保健」、Gakkenでございます。内容につきまして、SDGsを始め現代的な課題についての豊富な資料がございます。学習活動について、話し合う、記述する、表現するなど、コミュニケーション能力や思考力の育成を促すための言語活動が随所に設けられております。

以上でございます。

教育長 ただいま教科「体育」、種目「保健」についての説明がありました。御審議をお願いいたします。

坂田委員。

坂田委員 保健は、ほかの教科書と違って、保健の教科で使う題材を提供するといったつくりになっていて、ほかの教科書と比べてシンプルな構成になっていると思います。

荒川区の防災部で作っている「地域の安全マップ」は、Gakkenや東京書籍に取り上

げられています。

タイプが大きく分けて三つほどあると思っていまして、一つはG a k k e nですけれども、これは全体の中では割とバランスのとれたタイプといえると思うのですが、まずG a k k e nは都教委の調査データを見ると、心の健康、それから不安や悩みへの対処方法という精神面の内容を最も充実させているところが特徴かと思えます。

5、6年生になると、現代的な課題に関する題材が豊かであるところが印象的です。不安や悩みということに対する対応ということで、呼吸法だとか、運動だとか、相談だとか、そういった具体的な解決策というのが取り上げられています。

また、題材に着実に沿う形で論点を挙げていくと、そういうようなつくりになっているかなと思います。

東京書籍は、題材自体は資料としているものが多くて、結果的にメインの分量の部分はやや少なめになっています。ただ、それに加えてちょっと演習的な要素を充実されているように思います。調べるとか、解決するとかですね。そういう意味でやや発展的な内容を多く含んでいるかと思えます。そこについては授業でどういうふうにするかということに依存しているかと思えます。授業でそういった演習に沿って授業をするということであれば有用なのですが、授業ではもう少し自由に教えているということであれば、その辺は思ったほど使えないということにもなるかと思えます。

それから大日本図書ですけれども、図やグラフが多くて見やすくなっています。これは一番資料、題材を挙げたというか、そういう性格の感じが強い教科書になっています。5、6年生で心の発達のところはやや少なめかなと思います。

私としては、現代的な問題、それから現代で特に大きな課題になっている、精神面の健康に関する題材が多いG a k k e nがよいのではないかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

小林委員、お願いします。

小林委員 保健体育に関してですが、それぞれに各社S D G s、感染症、パソコンと健康を初め現代的な課題についての豊富な資料がありまして、非常に工夫しながら教科書を作っておられるということが分かりました。

私としては、G a k k e nがいいのではないかと考えております。G a k k e nですが、不安や悩みへの対処ということで、メンタル面を扱っている、そこが非常に充実していると思っております。5、6年生になりますとメンタルで不調になる児童もいるかと思われるので、心のケアが大切で、そういった現場のニーズに応えるような内容ではないでしょうか。

2点目としては、軽量化されていて扱いやすいというのがあります。

3点目ですが、バランスがとれている、題材が非常に豊富であるとともに、考えさせる内容でもありまして、全体としてはバランスがとれているのではないかと思います。

もう1社挙げておくと、光文書院が非常にシンプルで、なおかつバランスがとれているという印象を持ちました。

以上です。

教育長 繁田委員、お願いします。

繁田委員 性教育はやっぱり科学的な説明を淡々とするほうが、先生方も教えやすいだろうなと思いましたが、どの教科書も最近のといえますか、近年のテーマ、感染症でしたらコロナとかSDGsとか、SNSとか、そういうこともちゃんと十分扱っていらっしゃる、甲乙つけがたいところはありませんけれども、課題解決とか話合いのような子どもたちのコミュニケーションですか、を促すところはGakkenがやっぱりちょっと強かったように思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員。

長島委員 各社、写真やイラストを多用して、分かりやすくなっていると思いましたが、一部パンフレット集のように見えなくもないところもあったように思いました。それから第3、4学年の方で、思春期に現われる体の変化というところで、各社、変化には個人差があって、人によってその変化の仕方が違うのは自然なことであるという記述になっているということを、これは確認したということです。

学習の進め方、あるいは保健の学び方ということですが、表現は多少違っていますが、課題を見つける、調べる、解決に取り組む、考える、話し合う、まとめる、生かすというプロセスを示しております。

その学習の進め方について、6社の中でGakkenが進めやすく、取り組みやすいのではと思いました。1時間の学習の進め方として、課題の確認、調べたりすることによる課題の解決への取組、話し合ったり説明したりしての課題の解決への取組、学習したことの活用といったことを示して、進めやすいのかなということです。

また、振り返ってみましょうとか、話し合ってみましょうというのが、各単元の中にあるわけですが、その後に書き込む欄が設けられていて、これもよいのかなと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございました。

今、先生方からGakkenという会社名を多く出されましたけれども、私は心の不安とか悩み、いじめ問題防止、感染症対策、薬物乱用防止、喫煙の被害と、あるいはまた性の多様性という項目を中心に、各社比較検討をいたしました。

その中で、私自身もGakkenが一番充実しているのではないかと思った次第です。

そのほか特に御意見がないようであれば、採決に移らせていただきます。

初めに東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんね。

大日本図書がよいと思われる方、いらっしゃったら挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 大修館書店がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 文教社がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 光文書院がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 Gakkenがよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 5名の方がGakkenに挙手をされました。

教科「体育」、種目「保健」につきましては、Gakkenの教科用図書を採択することに御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 Gakkenの教科書を採択することに決定いたします。

続いて教科「外国語」、種目「英語」の審議、採決をいたします。

指導室長、英語についての説明をお願いいたします。

指導室長 それでは教科「外国語」、種目「英語」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

まず「NEW HORIZON Elementary English Course」、東京書籍でございます。内容につきまして、基本的な学習の流れが書かれております。学習活動について、学習活動の指示の記載やゴールの学習活動について、映像による例示がされております。

次に「Junior Sunshine」、開隆堂出版でございます。内容につきまして、

年間3回の「Let's check」があり、パフォーマンス評価ができるようになっております。学習活動につきまして、見開きごとにゴールまでの道筋になるめあてが記載されております。

次に「CROWN Jr.」、三省堂でございます。内容につきまして、ほぼすべてのページに動画が、また、音声が付いており、コードを読み取るとチャンツ、歌などが視聴できるようになっております。学習活動について、既習事項を活用し、自分のことを伝える力を身につける内容構成となっております。

次に「ONE WORLD Smiles」、教育出版でございます。内容につきまして、全単元の章末の活動で使うワークシートがついております。学習活動につきましては、単元末の「振り返り」で自己評価ができるようになっております。

次に「Here We Go!」、光村図書出版でございます。内容につきまして、年間3回の「まとめ」があり、パフォーマンス評価ができるようになっております。学習活動につきまして、巻頭に「CAN-DO」リストが掲載されております。

次に「Blue Sky elementary」、新興出版社啓林館でございます。内容につきまして、学期に1回パフォーマンス評価ができるようになっております。学習活動について、単元の最初にUnitのゴールと各ステップのめあてが示されております。

以上でございます。

教育長 教科「外国語」、種目「英語」についての御審議をお願いいたします。

では坂田委員、お願いします。

坂田委員 英語については、各社共通して子どもたちの能動的なアクションを引き出す工夫をされているなと思いました。特に伝え合うということを各教科書重要視されていて、小学校の英語の学びとして、そういったところが非常に重要だと思いますし、日本の英語教育の中で話すと書く課題、特に大きな課題なわけですが、小学校の段階では話すということを強調して教えていくということは、重要なスタンスだと思います。

それで各社比較検討してみたのですが、まず東京書籍の「NEW HORIZON Elementary」ですけれども、ポイントをよく捉えられていて、例えば「はじめの音に慣れ親しもう」とか、「終わりの音に慣れ親しもう」とか、話すためには発音が必要なのですが、そういったところについてやっぱりポイントを捉えてうまく教えているなと思います。

それから全体的なレベルとしては、5年生の最初はやや高度な内容で出だしがスタートしているなと思います。その結果、6年生の最後には動物を助けようとか、それから「Save the Earth」とか、そういったかなり高度な題材にまで至っています。全般的に自主的な内容が多いと思います。

それから三省堂ですけれども、三省堂は一言でいうと、とにかくシンプルな作りだなと思います。四つの技能のバランス感覚が非常によくて、中でも特に話すこと、子どもたちに発表させるといったものの件数が多くなっています。

5年生では「紹介しよう」、それから6年生では「伝えよう」という形で、落ちついた構成の中で子どもたちの能動的アクションを引き出していくという意味では、最も使いやすい教科書ではないかなと思います。

教育出版の「ONE WORLD Smiles」ですけれども、写真や絵の占める面積が非常に大きくて、多様な要素の組み合わせで各レッスンができているという構成になっています。アンケート調査では、子どもたちはイメージを持ちやすいという御意見もありました。

それから、光村図書の「Here We Go!」ですけれども、三省堂と比べるとやや手のこんだ作りになっていると思います。それから、中で使われている写真やイラストの占める面積の割合がやや大きいかなと思いました。

以上、代表的なものを御紹介させていただきましたけれども、私としては4技能のバランスと、それからその中で話すということを中心にした能動的なアクションについて、先生方が指導しやすくできている、かつ全体としては構造がシンプルな三省堂を推したいと思います。

以上です。

教育長 では小林委員、お願いします。

小林委員 英語ですが、QRコードが各社ともに充実しているというのが、全体としての印象です。

まず推薦したいものとして、東京書籍を挙げたいと思っております。東京書籍ですが、日本を英語で紹介するというコンセプトが比較的明確であると思っております。例えば5年生のところですが、「世界の人に伝えたい日本のことは何かな」ということであるとか、あるいは「Welcome to Japan!」ということで、日本を紹介することが明確に出されているように思います。相手国を理解するというのも重要ですが、これからの世界においては英語で情報発信をする必要があると思いますし、その意味では優れているという印象を持ちました。

2点目ですが、QRコンテンツが非常に充実しておりまして、家庭で学習する場合の学習の支援ができるような教材づくりとなっているということを挙げておきたいと思っております。

そして次に挙げたいのが、三省堂です。三省堂ですが、シンプルな点がいいと思っております。



まして、あまり盛り込み過ぎていない、その意味では教員の側としても指導しやすさがあるのではないのでしょうか。

それと2点目としては、QRコンテンツが充実しております。ただし読み取った後、どこを見ればいいのか、少し戸惑うときがあるかなという印象も持ちました。

私からは以上です。

教育長 では繁田委員、お願いします。

繁田委員 英語の教育は、特に小学校の教育はリーディングとかライティングではなくて、やっぱり話す、スピーキングとヒアリングだと思います。それをどの教科書がやりやすいのかなと見まして、どの教科書も出てくる会話はとても自然なもので、とても好ましい印象を私は受けました。

具体的には、東京書籍は情報量が多くて、文字も工夫されていて読みやすい。書き込むところが割と多いのかなという、そういう印象でした。

三省堂は、今までの先生方と同じでシンプルで、それこそ絵が並んでいて、それを話すというところが原点だと思いますので、私はシンプルでいいかなと思いました。

それから教育出版は文字が少ない分、やっぱりこれも直感的に捉えて、コミュニケーションを促すという点では良い本だと思いました。

それから光村図書も文字が少なく、分かりやすく、その一方で題材が非常に好ましい印象、何か小学生らしいというか、すがすがしくて健康優良な感じでいいなという、そういう印象でした。

以上です。

教育長 では長島委員、お願いします。

長島委員 まず辞書というか、語彙リストというのに注目してみました。東京書籍、開隆堂、三省堂、光村図書は別冊で示されていて、教育出版と啓林館は巻末に語彙リストが示されています。いずれもジャンル別になっていて、アルファベット順に見ることはできないようです。

その語彙リストに掲載されている語彙数ですが、都教委の資料によりますと少ないもので教育出版の第5学年は199、第6学年が192、それから多いもので開隆堂の第5学年685、第6学年705、啓林館の第5学年671、第6学年725と、これは違いが見られるかと思います。

教科書の使い方についても各社工夫しているわけですが、東京書籍と三省堂、そして啓林館の3社に注目しました。東京書籍の「NEW HORIZON Elementary」は、単元の内容に慣れ親しむStarting Out、それから学習内容の定着を図るY

our Turnですね。コミュニケーションを楽しむEnjoy Communication、世界の文化を知るOver the Horizonとなっていて、その中で学習内容の定着を図るYour Turnでは、Let's Watch、Let's Listen、Let's Tryという構成になっています。

三省堂の「CROWN Jr.」は、第5学年、第6学年がそれぞれ三つのUnitで構成されていて、各UnitはHop、Step、Jumpという構成になっています。Hopは見通しを立てようですね。Stepで語句や表現を学んでコミュニケーションしよう、Jumpで発表しようとなっています。

啓林館の「Blue Sky elementary」は、アクティビティなどが明確で、取り組みやすいのではないかと思います。

その3社かなと思っております。

あと個別に、教育出版の第6学年のところに「The Letter」という単元があって、これは教育出版の国語の第1学年の下巻の「お手がみ」に対応するものになっていて、英語は当然短いわけですけど、読むということになってしまうかもしれませんが、興味深いものだと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

私は東京書籍、三省堂、教育出版に大変興味を持ちました。英語の授業の中で活用するとなると、あまり発展的内容が多いのもどうなのかなと思いつつ、そういった意味では三省堂か教育出版がいいのではないかなと思ったのですが、小学生の英語でも習熟度と異なりますか、一人一人の学びの程度に差があって、授業の先生が教える内容だけではなくて、もっと深い学びをしたいという子どもにとっては東京書籍の資料やコンテンツが大変魅力的なのかなと思った次第です。

それでは、そのほか御意見ございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 特になければ採決に移らせていただきます。議案掲載の順に発行者名を挙げさせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。2名ですね。

〔挙手〕

教育長 開隆堂出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 三省堂がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 新興出版社啓林館がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 3名の方が三省堂に挙手をされました。

教科「外国語」、種目「英語」につきましては、三省堂の教科用図書を採択することに御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは三省堂の教科用図書を採択することに決定いたします。

続いて教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」の審議、採決をいたします。

指導室長、道徳についての説明をお願いします。

指導室長 では教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」について、調査研究のまとめを御報告いたします。

まず「新しい道徳」、東京書籍でございます。内容につきまして、教材や内容項目が整理されていることで、とても扱いやすいものとなっております。学習活動につきまして、発問が精選されており、教員にとって教材研究もしやすく、展開後段での児童の振り返りに十分時間が確保できるよう工夫されております。

次に「小学道徳 はばたこう明日へ」、教育出版でございます。内容につきまして、全学年でいじめ等の表記が示され、現代的諸課題への対応が見られます。学習活動につきまして、学習の流れがすべて記載されているとともに、振り返りや自己評価欄を設けられております。

次に「道徳 きみが いちばん ひかるとき」、光村図書出版でございます。内容につきまして、時代に求められる教材が選定されております。学習活動につきまして、学習の流れが記載されておりますので、見通しを持って学習を進めことができるとともに、関連図書とのつながりがございますので、生活に根付いたものになると思われれます。

次に「小学道徳 生きる力 道徳ノート」、日本文教出版でございます。内容につきまして、四つの視点をアイコンで示し、内容項目が区別しやすいものとなっております。学習活動につきましては、「心のベンチ」のトピックが児童の関心を高めることにつながるとともに、学びの足跡を残せる工夫があり、学習の振り返りがしやすいものとなっております。

次に「小学道徳 ゆたかな心」、光文書院でございます。内容につきまして、どの教材にも「考えよう」という表現がなされており、児童が視点をもって考えることができるようになっております。学習活動につきまして、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、SNSのよりよい活用をテーマとした教材が掲載されております。

次に「新版 みんなの道徳」、Gakkenでございます。内容につきまして、教材や内容項目が整理されるとともに、教材に関するキーワードがあり、導入への工夫が見られます。学習活動につきまして、キーワードによって児童の思考を深める工夫がなされているとともに、発問が精選されているので、教材研究もしやすく展開後段での児童の振り返りに十分時間を確保できるものとなっております。

以上でございます。

教育長 教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」につきまして、御審議をお願いいたします。

では坂田委員、お願いします。

坂田委員 道徳の各教科書は、各社共通して感動的な作品を多く素材として収録されていると思います。東京都教育委員会のデータでは、Gakkenが情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数がやや多いということ以外は、あまり大差がないという結果になっています。

私としては、全般的にもう少し道徳でもグローバルな素材を多く扱ってもいいのかなと思いました。

その上で個別に見てみたのですが、東京書籍は題材となる文献があって、それに後に「考えよう」がついているだけの、非常に簡潔なつくりになっています。簡潔なつくりの中で、特に良質な素材が多くて厳選されているなと思いました。

それから教育出版ですけれども、題材ごとに、テーマごとに最初のページの右上にテーマが明確に示されていて、構成としては分かりやすいものです。例えば友達の気持ちになってとか、それから自分の情報を守る、世界の人々に目を向けてとか、そういったテーマ重視型の構成になっていると思います。

6年生では、地球環境や世界の平和といった世界に目を向ける部分について、他の教科書よりもやや多めに扱っているかなと思います。紙面はやや白いかないか、白が多いかなという、そんな感じはあります。

光村図書の「きみが いちばん ひかるとき」ですけれども、1年生はイラストが非常に多く使われていて、導入に関しては最もよく配慮されていると思います。また、さすが光村だけあって、よい素材が多いなと思いました。

最後にGakkenですけれども、東京書籍よりもイラストや写真を多めに使われています。また、題材の扱い方にバリエーションがあって、そういったところで工夫をされている

なと思います。また、6年生ではSNSのやり取りのような現代的なツールに関する道徳や、それからグローバルサウスの国々との関係なども論じられています。

なかなかいずれも甲乙つけがたいところはあるのですが、道徳という科目で取り上げるとすると、私はやはり簡潔なつくりのものがよいのではないかと。その中でよい素材があるものということで、東京書籍を一番に推したいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では小林委員、お願いします。

小林委員 道徳ですが、何社か推薦をしたいと思います。

東京書籍です、1社目。1点目ですが、作品、教材の後に問いがありまして、これが作品についての問いが一つ、また自分のことを振り返るといった問いが一つで、シンプルな構成になっている点がいいと思っております。

2点目ですが、実際に社会で活躍している、あるいは活躍してきた人物を取り上げていて、例えば6年生で中村哲医師を取り上げているのですが、こういった取り上げ方は非常に重要で、ロールモデルになるといった、そういった意味もあると思います。

2社目、光村です。1点目、作品が非常によく、またQRコンテンツも充実しておりまして、作品を優れたプロの朗読で聞けるのは、その点は非常にいいと思いました。ただし問いについても国語的で、登場人物の気持ちを問う、そういった問いが多いように思われるのですが、道徳においてそこまで深める必要があるのかどうかという気もいたしました。

そして3社目ですが、日本文教出版です。ここも作品の後の問いですが、シンプルになっておりまして、考えてみようというのが1問目、見つめよう、生かそうというのが2問目としてあります。

道徳ですが、むしろシンプルな問いの方が重要であると思います。作品に基づきながらも、自分自身の在り方を振り返ることが重要で、その意味ではシンプルな問いである東京書籍がよいと思いました。

以上です。

教育長 では繁田委員、お願いします。

繁田委員 子どもたちのいろいろな多様な意見を促しつつ、最後に健全なというか、社会適合的というか、ところに話合いを持っていったりするところ、本当に先生の力量の差が出るころだなというのを見学させていただいたときに感じておったわけですが、道徳の特に教科書なんかは割と指導的な内容の本にするのか、それともあくまでも題材として自由な考えを尊重して議論する教材、教科書にするのかというのは、意見が分かれるとこ

ろだろうなという、そんなことを考えながら教科書を拝見させていただきました。

先生方、既におっしゃっていただいた光村図書は、さすが読ませるなど。課題を自分ごととして子どもたちが受け止めるといいな、受け止められるのではないかなという印象。

それから日本文教出版は、題材の描き方が生き生きとしていて、おつくりになった先生方の気持ちが入っているものが伝わってきました。

それからGakkenは、発問が少ないのですけれども、冒頭私、ちょっとだけお話ししましたように先生らしさが出る、題材の自由度が高いなど。先生の力に負うところが大きいのですが、この教科書でそんなふうに教えられたらすごくいいなと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

では長島委員、お願いします。

長島委員 「学習指導要領」には特別の教科道徳の内容として、「主として自分自身に関すること」、「主として人との関わりに関すること」、「主として集団や社会との関わりに関すること」、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、という四つが挙げられています。

都教委の調査研究資料ですと、この4領域の教材数について、6社とも「主として集団や社会との関わりに関すること」が最も多くて、光文書院を除いて次に多いのが「主として自分自身に関すること」、その次が「主として人との関わりに関すること」、一番少ないのが「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」になっています。

6社の教科書を見させていただいて、都教委の資料で一番少なくなっている生命や自然、崇高なものとの関わりに関する教材というのが、もう少し多くてもよいのではないかと思いました。それが1点目です。

2点目ですが、日本文教出版のみ別冊で「道徳ノート」というのがあります。アンケートでは、この道徳ノートについて使いやすそうという意見もあれば、逆にこれがあるとやりにくくなるのではという意見がありました。個人的にはちょっと縛られてしまうのかなという感じを持ちました。ただ、記述はどういう記述もできるようになっていますので、そこまで拘束力があるとは思いませんということです。

そして3点目ですが、考えよう、話し合おうということが重要とされていますが、考えようということについて、各社やってみて考えようとか、演じて考えようということが打ち出されていて、なるほどなと思いました。

4点目です。東京書籍の第1学年の最初ですね、「道徳の学習を始めよう」のところに、「道徳の学習ではおはなしをよんでころろについてかんがえます」とあって、各社ともです

が、作品を読んで考えようという教材が多いわけですが、その場合、こういった教材、作品を設定するかが重要になってくるかと思います。お話、あるいは文学作品だけではなくて、いじめに関してであるとか、情報モラルではSNSいじめ、さらには子どもの権利条約とか、世界人権宣言など各社工夫した教材が示されていると受け止めました。

6社の中で、光文書院と東京書籍かなと思いました。光文書院の方は、ページの左に考えよう、広げようということが示されていて、作りとして非常に分かりやすいのではないかと思います。東京書籍については、取り扱われている教材であるとか、あるいは文章とイラストのバランスなど全体的に判断してということになります。

以上です。

教育長 それでは、私からも感想を述べさせていただきます。私は6社の教科書を比較する中で、とりわけ自分を大切にすること、そして他者を大切にすること、いじめ防止も含めて他者を大切にすることについて、丁寧に書かれている教科書はどれかという視点で見させていただきました。

その中で印象に残ったのが、光村図書と日本文教出版でありました。この教科書でしっかり学んで、子どもたちが自分を大切に、人を大切にすることを養ってもらえればなと思った次第でございます。

そのほか御意見等ございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 特にないようであれば、採決に移ります。

それでは初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

念のために申し上げます。教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 日本文教出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 光文書院がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 G a k k e nがよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 3名の方が東京書籍に手を挙げられましたので、教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」につきましては、東京書籍の教科用図書を採択することに御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、そのように決定いたします。

これで予定しておりました11教科13種目の採択が終了いたしました。改めて確認をさせていただきますと存じます。

それでは指導室長、採択結果について確認をお願いします。

指導室長 それでは、令和6年度から荒川区立小学校で使用する教科用図書11教科13種目につきまして、御採択いただいた結果を申し上げます。

- 1、教科「国語」、種目「国語」、光村図書出版。
- 2、教科「国語」、種目「書写」、光村図書出版。
- 3、教科「社会」、種目「社会」、教育出版。
- 4、教科「社会」、種目「地図」、帝国書院。
- 5、教科「算数」、種目「算数」、東京書籍。
- 6、教科「理科」、種目「理科」、大日本図書。
- 7、教科「生活」、種目「生活」、教育出版。
- 8、教科「音楽」、種目「音楽」、教育芸術社。
- 9、教科「図画工作」、種目「図画工作」、開隆堂出版。
- 10、教科「家庭」、種目「家庭」、開隆堂出版。
- 11、教科「体育」、種目「保健」、Gakken。
- 12、教科「外国語」、種目「英語」、三省堂。
- 13、教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」、東京書籍。

以上でございます。

教育長 ただいま指導室長が読み上げましたように、採択結果は以上のとおりとなりました。

採択結果につきましては、本委員会の終了後に公開いたしますので、よろしく願いいたします。

以上で議案第19号「令和6年度から使用する小学校教科用図書の採択について」の審議は終了いたしました。

続きまして、議案第20号「令和6年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」を議題といたします。事務局より議案の説明をお願いします。



指導室長 それでは、議案第20号「令和6年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」、御説明いたします。

提案理由でございます。令和6年度に荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書を採択するものでございます。

内容でございます。令和6年度に荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書として、各学校が教科、種目ごとに児童・生徒の実態に応じた教科用図書を調査研究し、その結果を受けて教育委員会において採択をお願いするものでございます。

別紙にて、教科、種目ごとの一覧として、選定、御採択いただきたい図書をまとめてございます。小学校59冊、中学校38冊となります。

令和6年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択については、小・中学校の特別支援学級で特別な教育課程を編成する場合には、学校教育法附則第9条、また、同法施行規則第139条の規定によって、教科により当該学年の文部科学省検定済みの教科用図書を使用することが適当でないときには、当該学校の設置者の定めるところにより、ほかの適切な教科用図書を使用することができるとなっております。

特別支援学級で使用する教科用図書は、いわゆる一般図書と呼ばれております。本区におきましては、東京都教育委員会が作成した資料を参考に、各学校が使用する一般図書を調査研究することとなっております。今回は令和5年度から令和7年度使用特別支援教育教科書調査研究資料、及び令和5年度用一般図書契約予定一覧から、各学校が調査研究をいたしました。東京都では、これら2種類の資料等に示される一般図書について、十分な調査研究が行われております。

本区で使用する一般図書につきましても、都立特別支援学校で使用する図書と同じものを基本的に使用することで、各特別支援学級の児童・生徒の状況に応じた適切な図書を選択することができると考えております。本日は令和6年度荒川区立小学校及び中学校特別支援学級で使用する一般図書の調査のまとめを御報告させていただきます。

御審議のほど、よろしく願いいたします。

教育長 ただいまの説明につきまして、御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

長島委員。

長島委員 資料239ページのところですけれど、1枚目のところ、多分これ「国語」と入るのではないのでしょうか、左側。違いますかね。

教育長 ああ、この教科のところ。

長島委員 はい。空欄になっていますけど。

指導室長 御指摘のとおりでございます。大変申し訳ございませんでした。この空欄のところ

には「国語」が入ります。後ほど訂正させていただきます。

教育長 よろしいですか。そのほかございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 特になければ、お諮りさせていただきます。本件につきまして、原案のとおり採択することに御異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議ないものと認めます。

議案第20号「令和6年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」は、原案のとおり採択することに決定いたしました。

その他の報告事項ですけれども、教育委員会の日程について、事務局から説明をしてください。

教育総務課長 245ページをお開きいただければと思います。修正箇所につきましては、8月25日金曜日、防災部被災地訪問報告会の時間が決まりましたので、「15時から16時」と今回変更させていただければと思います。場所につきましては、記載が次のページにございますように、ゆいの森で開催をさせていただきたいと思います。

以上でございます。

教育長 教育委員の先生方から何かございますでしょうか。

特になければ、以上をもちまして、荒川区教育委員会令和5年第15回定例会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。

傍聴者の皆様もこれにて終了でございます。長時間にわたりありがとうございました。

了